

みやぎ食の安全安心消費者モニター アンケート調査結果報告

アンケート対象者 「みやぎ食の安全安心消費者モニター」 912人 (平成28年6月2日現在)

アンケート回答者数 464人 (回収率50.9%)

調査実施期間 平成28年6月上旬～6月下旬

アンケート回答者属性

男女構成

男性	女性	不明
120	344	0

同居している未成年家族の有無

あり	なし	不明
116	342	6

年代別内訳

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
1	8	22	55	89	150	109	29	1

宮城県の居住期間

5年未満	5～9年	10～19年	20年以上	不明
3	11	40	406	4

※「同居している未成年家族の有無」は、以下「未成年家族の有無」と記載する。

※複数回答の設問のグラフについては、各属性の回答者数を分母とした割合 (%) で示した。

※男女別、年代別、未成年家族の有無別の有意差 (統計上、偶然であるとは考えにくい差) については、有意水準 5% で有意差検定を行っている。なお、複数回答の設問では選択肢毎に有意差検定を行った。

※各設問の男女別、年代別、未成年家族の有無別については、有意差検定で有意差ありの項目のみ回答割合の高低を記述している。

《結果概要》

I 食と放射性物質について (問1～問15)

食品中の放射性物質を気にしている回答者は71.3%となり、昨年度調査と比べて0.7ポイント低下した (問1)。気にしている理由は、「人体への影響が不安」が最も多く、次いで「基準値そのものが不安」、「検査結果が信用できるか不安」等で、昨年度と同様の傾向である (問2)。

一般食品における放射性セシウムの基準値について、「数値の根拠もある程度知っていた」とした回答者は30.0%で、「数値のみを知っていた」とした回答者は49.3%であった (問5)。

放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報については、昨年度よりやや少ない49.3%の回答者が確認している一方、「売られているものは安全だと思っているので確認しない」、「気にしていない」とする回答者は昨年度よりやや多い38.2%であった (問7)。また、放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報の確認手段は、回答が多い順に「新聞」、「店頭表示」、「テレビ・ラジオ」となり、新聞で確認を行う回答者が依然多く、昨年度調査と比較して「店頭表示」とする回答者が増加し、「テレビ・ラジオ」を上回った (問8)。加えて、県が出す食と放射性物質に関する情報について「分かりやすい」とした回答者は38.6%であり、昨年度と比べて3.0ポイント上昇した (問9)。

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取り組みとしては、「検査状況や結果のわかりやすい公表」、「県産農産物の安全性のPR」、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」、「放射性物質の軽減対策の取り組み状況のPR」、「安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説」の順で要望が高く、継続した情報提供が求められている (問14)。

II 食の安全安心について (問16～問26)

回答者の60.0%が食の安全安心全般について何らかの不安を感じており、昨年度と比べて6.0ポイント低下した。(問16)。不安を感じる項目のうち、「輸入食品の安全性」を最も不安に感じており、次いで「残留農薬」、「環境汚染物質」、「食品添加物」、「残留抗生物質」の順となった (問17)。

食品の安全安心を確保するために大変重要だが、十分に行われていないと認識されている取り組みとしては、「輸入食品の検査体制の強化」、「違反、事件、事故の速やかな情報公開」、「食品の衛生・監視指導の強化」、「食品製造企業の自主管理体制の強化」であった (問19)。

さらなる食の安全安心に向けた県の取り組みとして望まれていることは、回答割合が高い順に「食関連事業者に対する安全性の監視及び指導の徹底」、「安全な農水産物生産環境づくり支援」、「生産者の取り組みへの支援」、「生産者に対する安全性の監視及び指導の徹底」、「食品表示の適正化の推進」となった (問21)。

県からの食の安全安心に関する情報提供について、「十分」または「おおむね十分」とした回答者は43.2%であり、昨年度と比べて5.4ポイント上昇した (問23)。

食の安全安心に関する情報収集方法は、行政が提供する広報誌やリーフレット等とする回答者が多い。また、回答者の80%以上が食の安全安心に関する何らかの活動等をしている (問25)。

I 食と放射性物質について

問1 食品中の放射性物質について、どの程度気にしていますか。(単一回答)

1 非常に気にしている	2 ある程度気にしている	3 あまり気にしていない
4 気にしていない	5 その他	

放射性物質については、「非常に気にしている」(12.1%)、「ある程度気にしている」(59.2%)を合わせた71.3%の回答者が気にしており、昨年度の調査に比べ0.7ポイント低下した。また、「あまり気にしていない」(23.5%)、「気にしていない」(5.0%)を合わせた回答者は28.5%で、昨年度の調査に比べ1.1ポイント上昇した(注)。

男女別、年代別、未成年家族の有無別のそれぞれにおいて有意差は見られない。

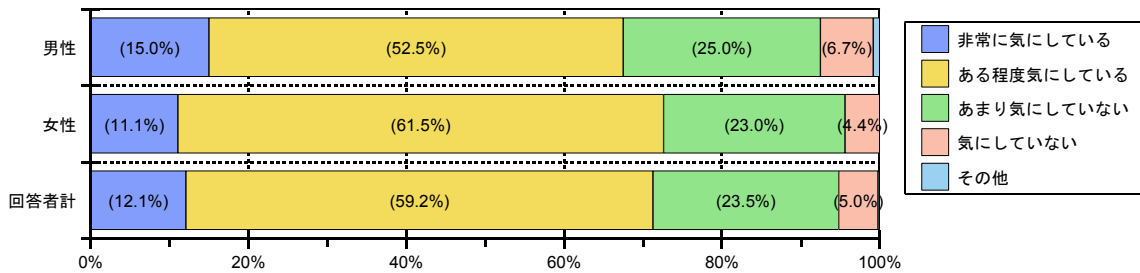
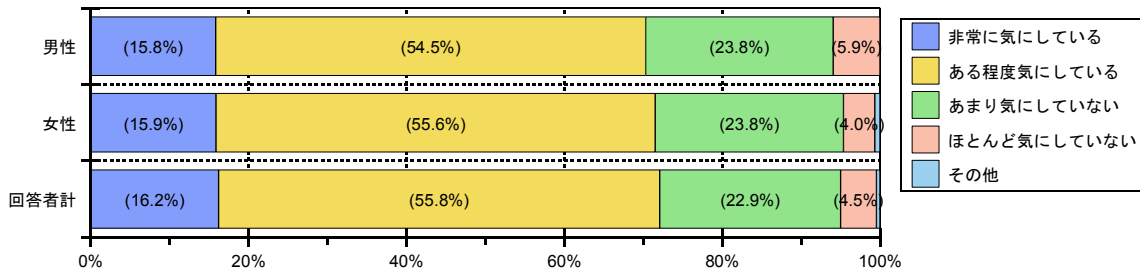


図1-1 放射性物質に対する意識 (男女別)



参考 (H27) 放射性物質に対する意識 (男女別)

(注) 選択肢4については、平成27年度は「ほとんど気にしていない」としていたが、今年度は「気にしていない」に変更している。

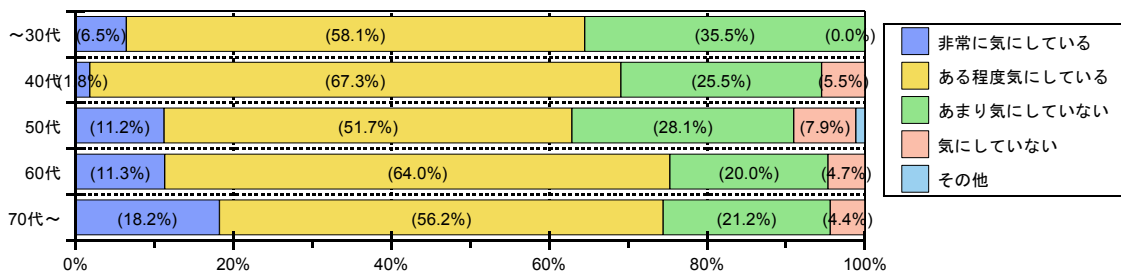


図1-2 放射性物質に対する意識 (年代別)

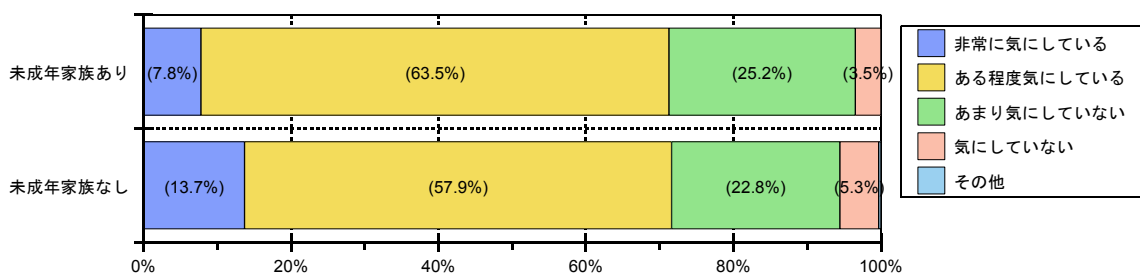


図1-3 放射性物質に対する意識 (未成年家族の有無別)

問2 気にしている理由は何ですか。(複数回答, 問1の1, 2選択者のみ回答)

- | | |
|-----------------------------|----------------|
| 1 基準値そのものが不安だから | 2 検査体制が不安だから |
| 3 公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから | 4 人体への影響が不安だから |
| 5 そもそも放射性物質がよく分からず不安だから | 6 その他 |

問1で「非常に気にしている」または「ある程度気にしている」の回答者のうち、その理由として「人体への影響が不安だから」(81.8%)が最も多く、次いで「基準値そのものが不安だから」(34.5%)と「公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから」(34.5%)が同率、続いて、「検査体制が不安だから」(27.6%)、「そもそも放射性物質がよく分からず不安だから」(22.7%)の順である。

男女別では、有意差は見られない。

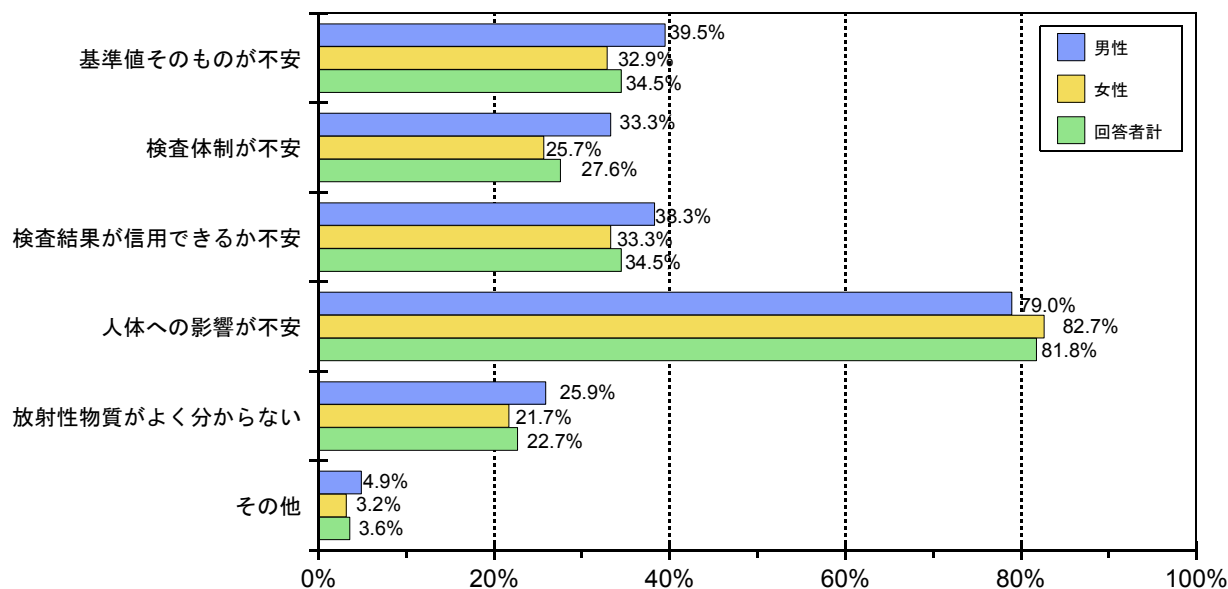
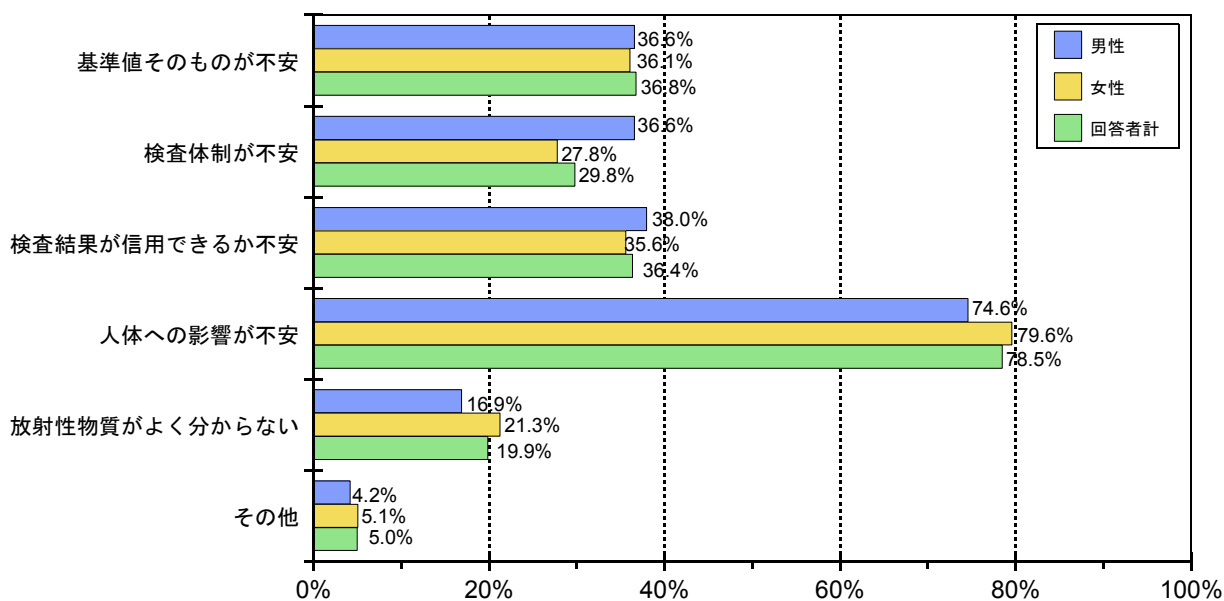


図2-1 気にしている理由 (男女別, 複数回答)

※問1で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答



参考 (H27) 気にしている理由 (男女別, 複数回答)

※問1で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

年代別では「基準値そのものが不安だから」の項目で有意差が見られ、70代以上の回答割合が高い。

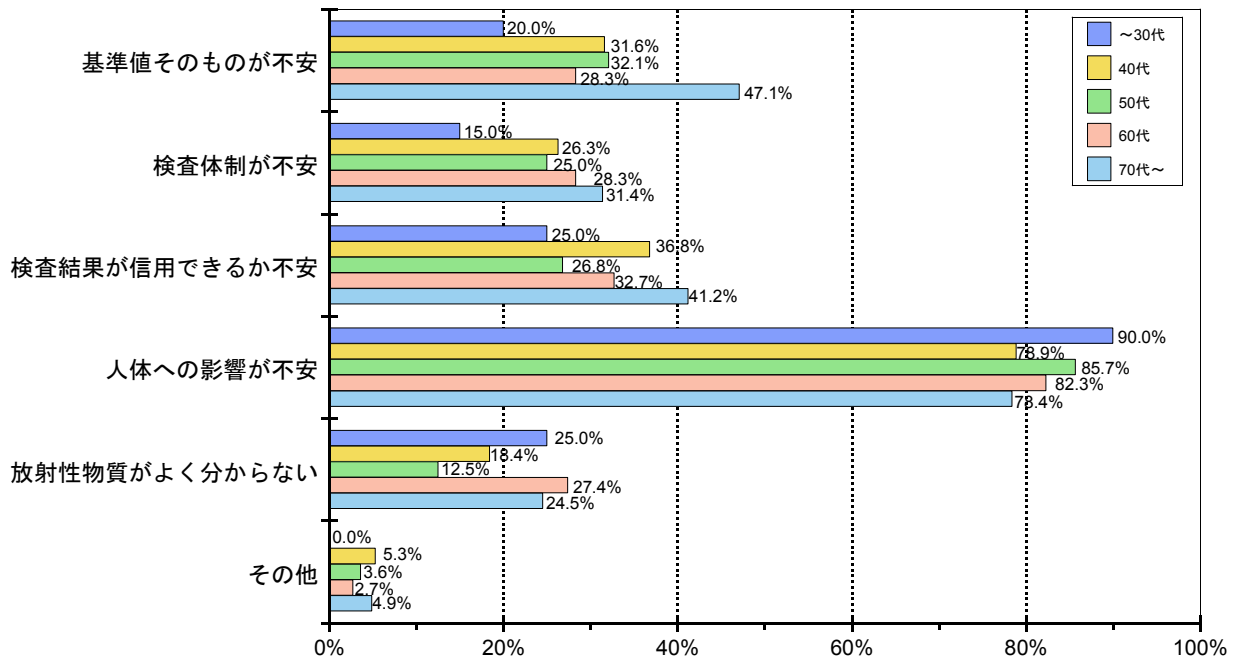


図2-2 気にしている理由（年代別，複数回答）

※問1で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。

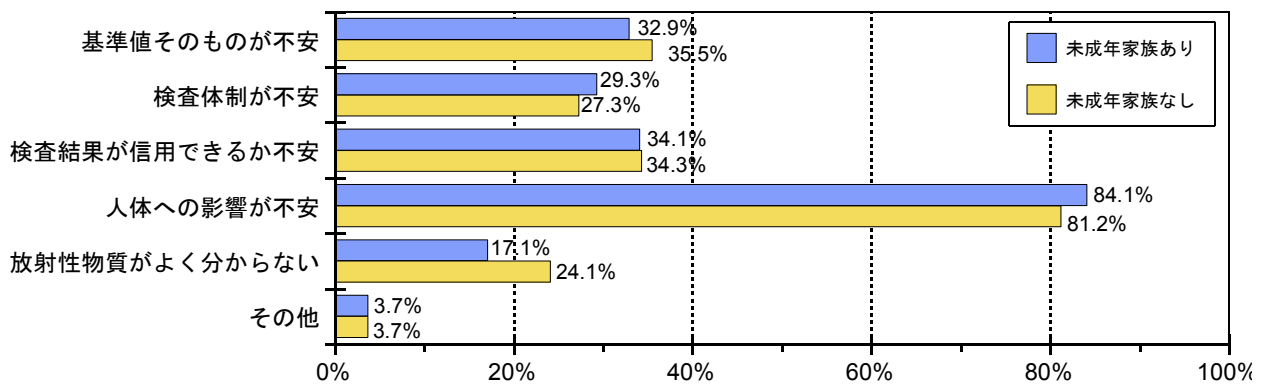


図2-3 気にしている理由（未成年の家族の有無別，複数回答）

※問1で1「非常に気にしている」または2「ある程度気にしている」を選択した者のみ回答

問3 気にしていない理由は何ですか。(複数回答, 問1の3, 4選択者のみ回答)

- 1 基準値以下なら安全だと思っているから
- 2 検査が十分に行われていると思っているから
- 3 人体に大きな影響はないと思っているから
- 4 放射性物質による影響が出るのは先のことから
- 5 放射性物質についてよく分からないので, 気にしても仕方ないから
- 6 その他

問1で「あまり気にしていない」または「気にしていない」の回答者のうち, その理由として「検査が十分に行われていると思っているから」(62.1%)が最も多く, 次いで「基準値以下なら安全だと思っているから」(59.1%)の順である。また, 昨年度と比べ「基準値以下なら安全だと思っているから」の回答割合は2.6ポイント, 「人体に大きな影響はないと思っているから」(23.5%)は10.5ポイント, 「放射性物質による影響が出るのは先のことから」(17.4%)は3.5ポイント上昇した。

男女別, 年代別, 未成年家族の有無別のそれぞれにおいて有意差は見られない。

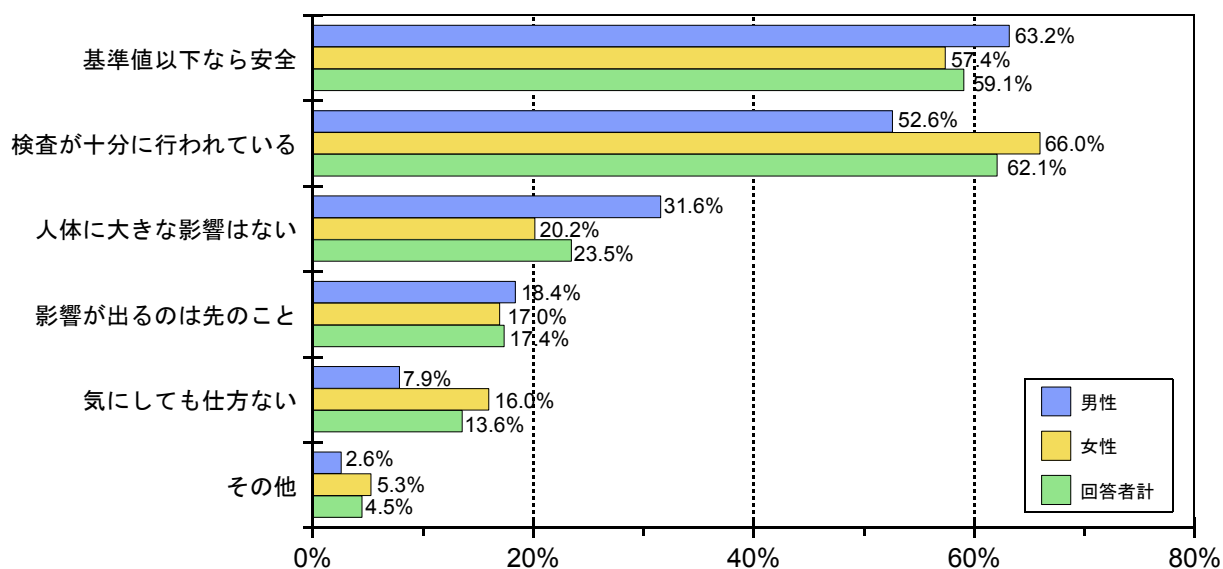
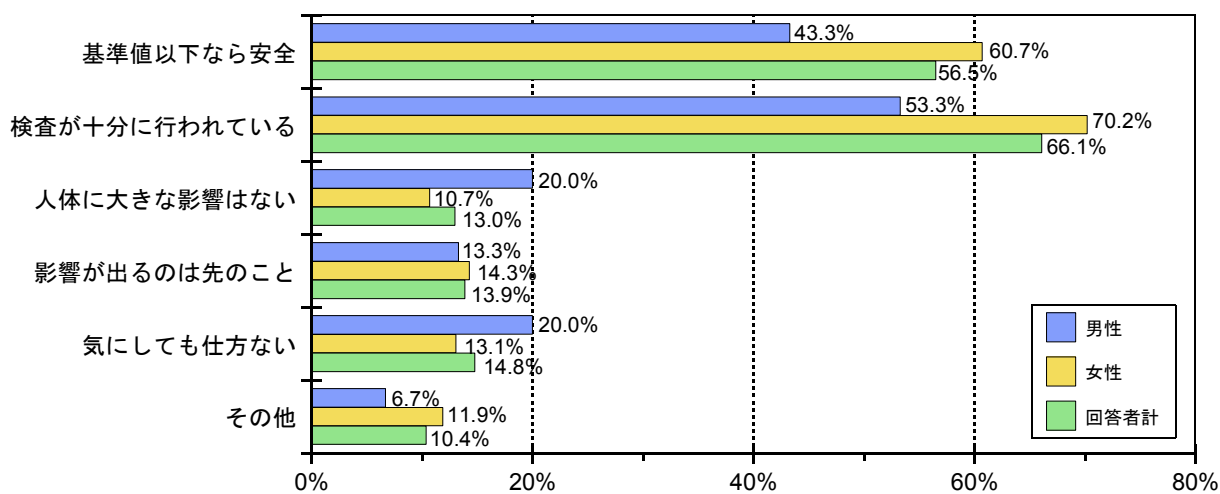


図3-1 気にしていない理由(男女別, 複数回答)

※問1で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答



参考(H27) 気にしていない理由(男女別, 複数回答)

※問1で3「あまり気にしていない」または4「ほとんど気にしていない」を選択した者のみ回答

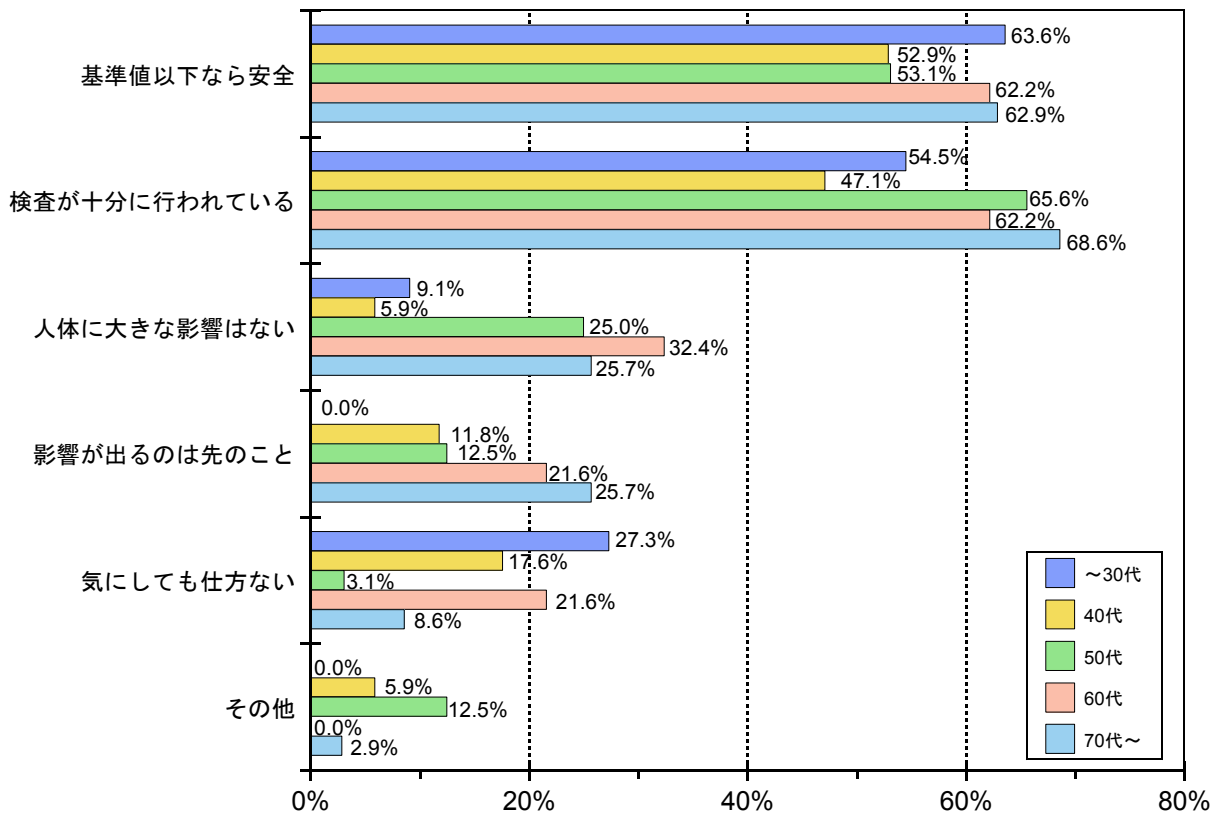


図3-2 気にしていない理由（年代別，複数回答）

※問1で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

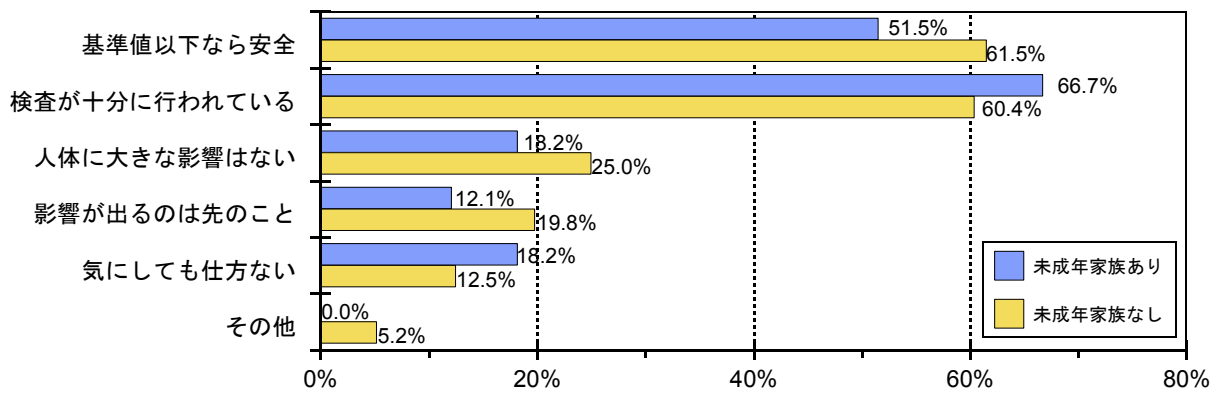


図3-3 気にしていない理由（未成年家族の有無別，複数回答）

※問1で3「あまり気にしていない」または4「気にしていない」を選択した者のみ回答

問4 現在どのような食品が不安ですか。(複数回答)

1 米	2 野菜	3 果物	4 きのこと・山菜類	5 肉類	6 魚介類
7 卵	8 牛乳	9 お茶	10 水道水	11 その他	12 不安な食品は特にない

不安を抱えている食品としては、「きのこ・山菜類」(69.0%)、「魚介類」(64.9%)、「野菜」(37.9%)、「米」(26.9%)、「水道水」(25.6%)の順であり、昨年度同様、「きのこ・山菜類」、「魚介類」を不安に感じる人が多いが、その回答割合はやや低下している。一方、「不安な食品は特にない」(10.8%)は昨年度と比べ0.3ポイント上昇した。

男女別では「米」の項目で有意差が見られ、女性の回答割合が高い。

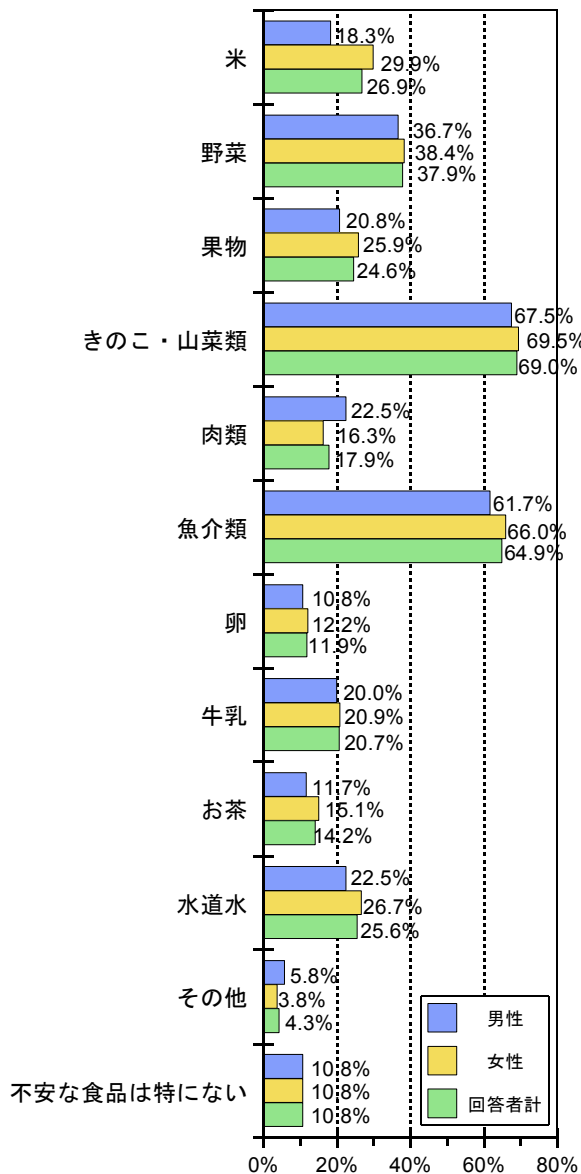
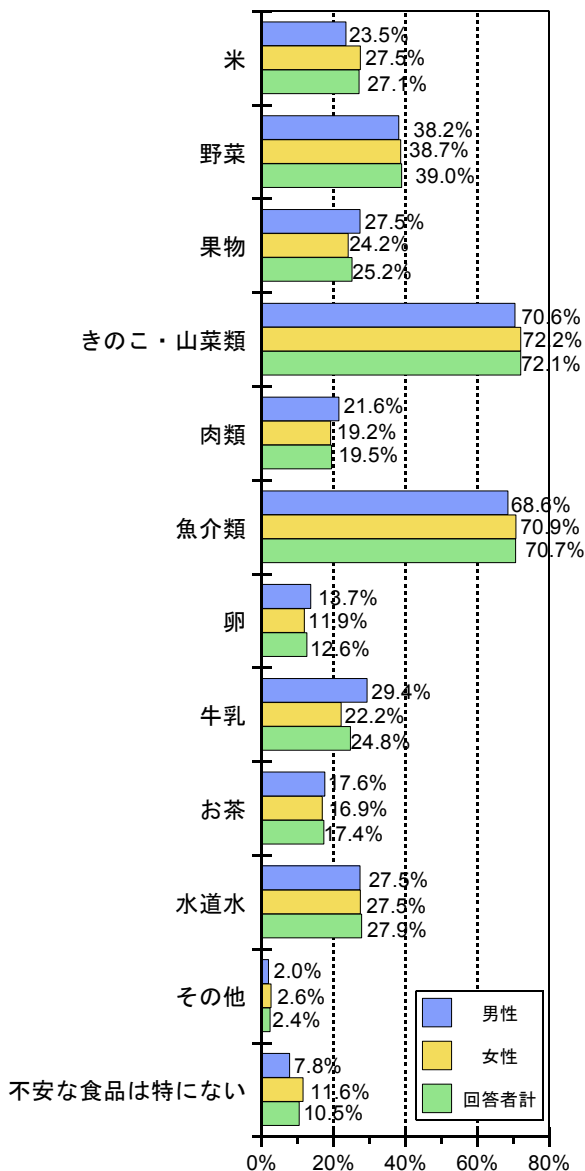


図4-1 不安を感じる食品 (男女別, 複数回答)



参考 (H27) 不安を感じる食品 (男女別, 複数回答)

年代別では有意差が見られ、「きのこ・山菜」の項目では30代以下の回答割合が低い。「牛乳」の項目では40代の回答割合が高い。「お茶」の項目では60代の回答割合が低い。

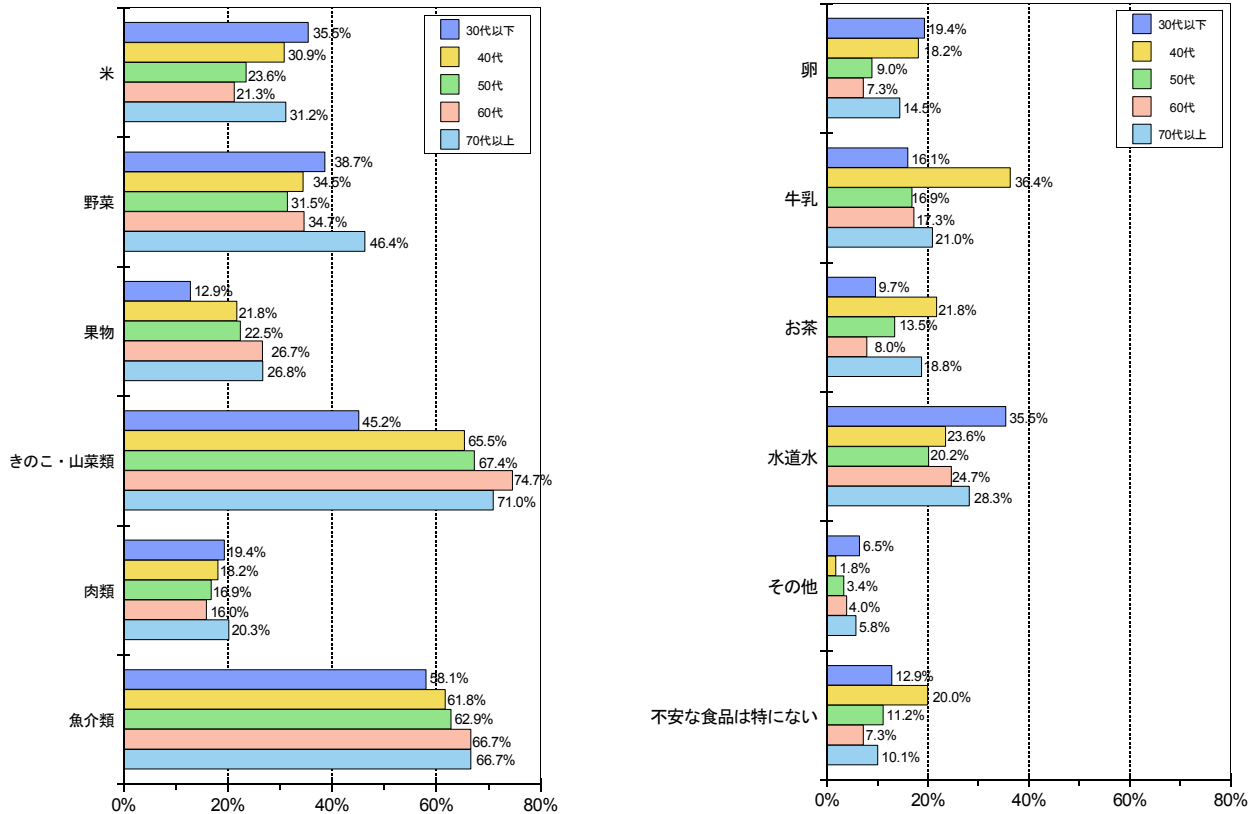


図 4-2 不安を感じる食品（年代別、複数回答）

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。

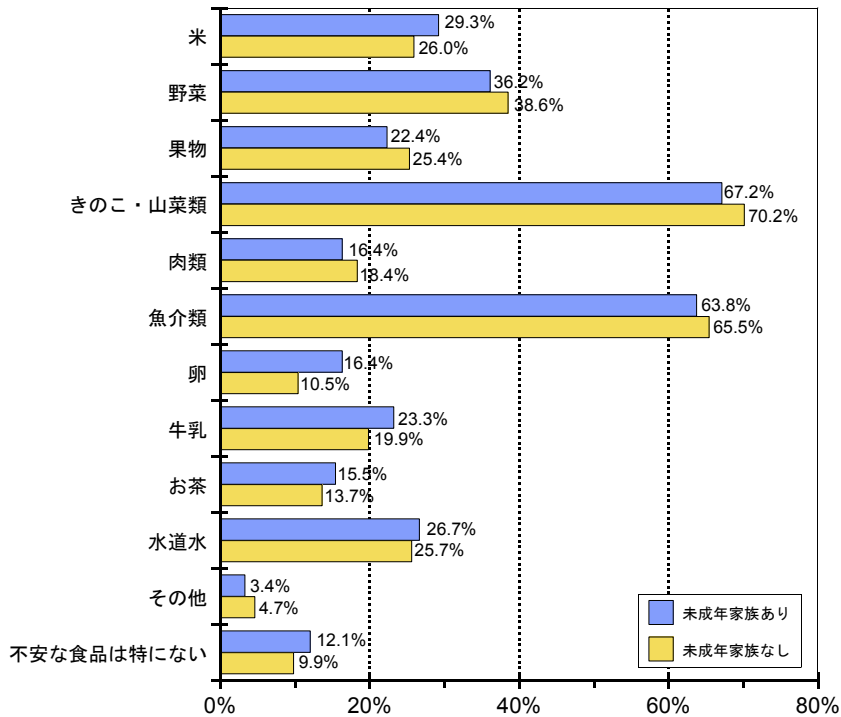


図 4-3 不安を感じる食品（未成年家族の有無別、複数回答）

問5 一般食品における放射性セシウムの基準値は、1キログラムあたり100ベクレルですが、この数値を知っていましたか。(単一回答)

- 1 知っていた (数値の根拠もある程度知っていた)
 2 知っていた (数値のみを知っていた)
 3 知らなかった

一般食品の基準値が「100Bq/kg」であることについて、「知っていた (数値の根拠もある程度知っていた)」(30.0%)、「知っていた (数値のみを知っていた)」(49.3%)を合わせた、知っているとした回答者は79.3%であり、昨年度と比べると10.0ポイント上昇した (注)。

男女別では、有意差は見られない。

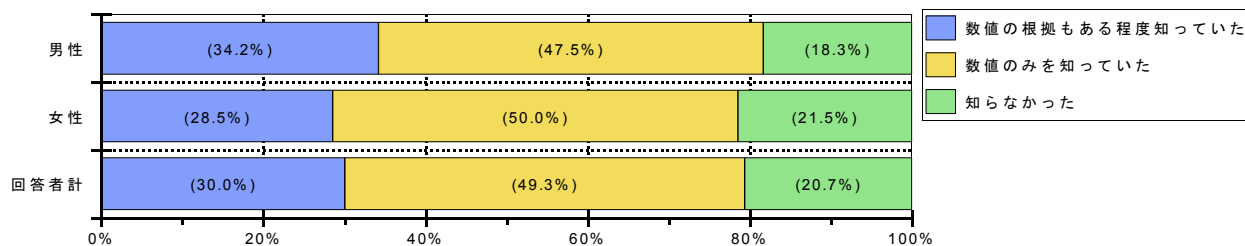
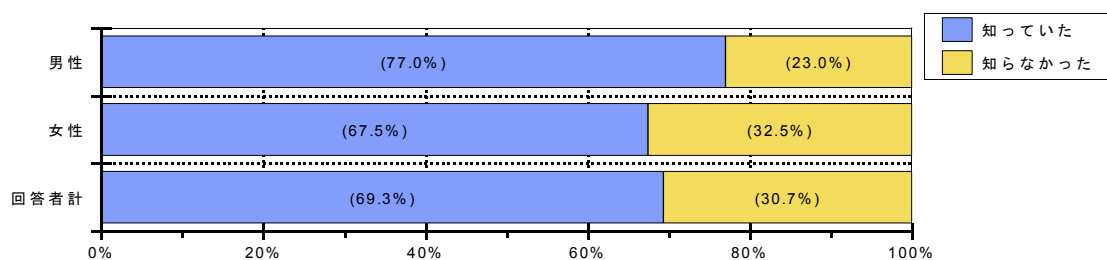


図5-1 基準値の認知度 (男女別)



参考 (H27) 基準値の認知度 (男女別)

(注) 平成27年度は「知っていた」のみを選択肢に設定していたが、今年度は「知っていた (数値の根拠もある程度知っていた)」, 「知っていた (数値のみを知っていた)」に分けている。

年代別では「知らなかった」の項目で有意差が見られ、30代以下及び40代の回答割合が高く、60代及び70代以上の回答割合は低い。

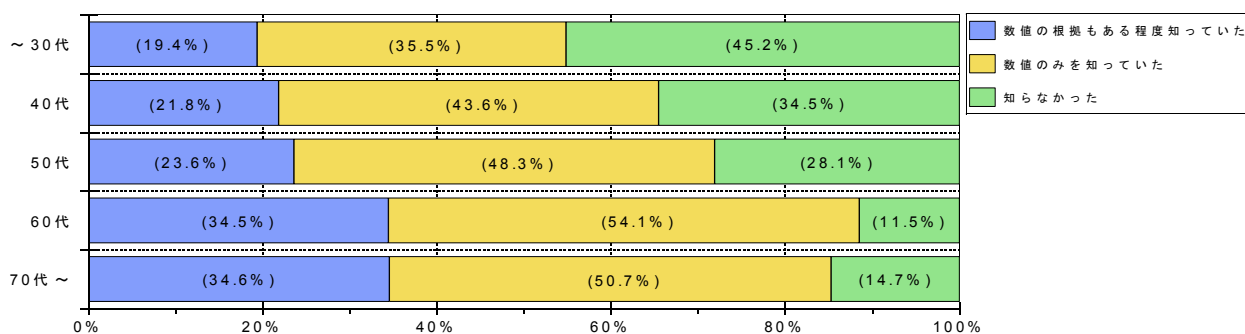


図5-2 基準値の認知度 (年代別)

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。

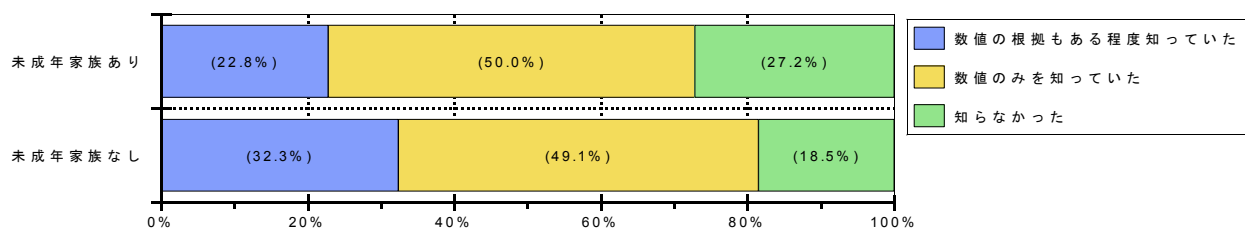


図5-3 基準値の認知度 (未成年家族の有無別)

問6 一般食品における放射性セシウムの基準値について、どう思いますか。(複数回答)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 基準値以下なら安心 | 2 基準値以下でも不安 |
| 3 基準値はもっと厳しくしたほうがよい | 4 基準値はもっと緩めたほうがよい |
| 5 特に気にしていない | 6 よく分からない |
| 7 その他 | |

食品に対する基準値については、「基準値以下なら安心」(46.6%)の回答割合が昨年度同様最も高かった。

男女別では有意差が見られ、「基準値はもっと厳しくしたほうがよい」の項目では男性の回答割合が高く、「よく分からない」の項目では女性の回答割合が高い。

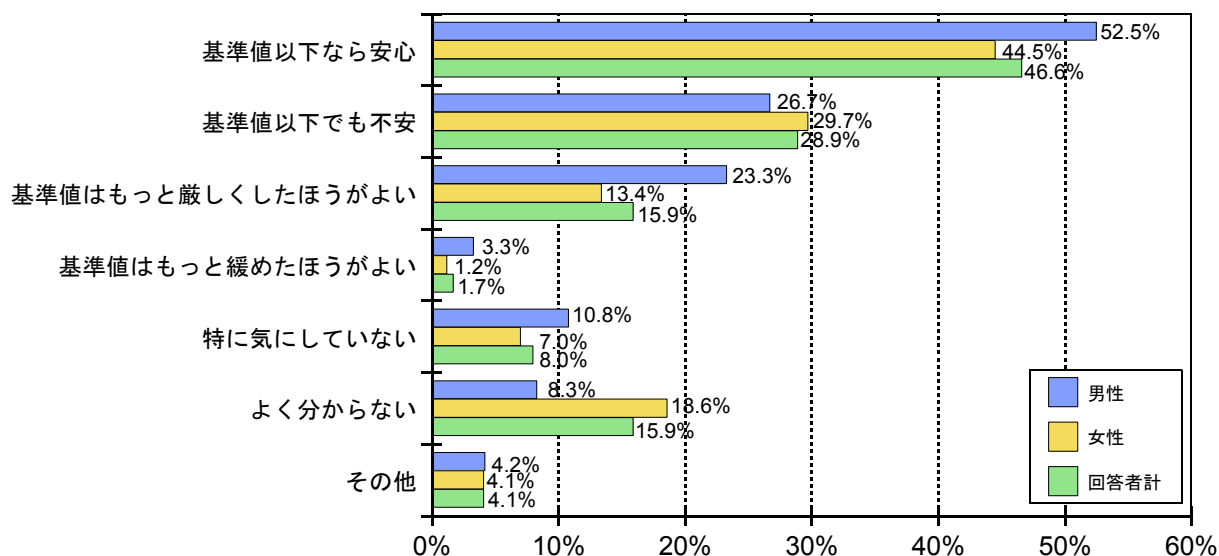
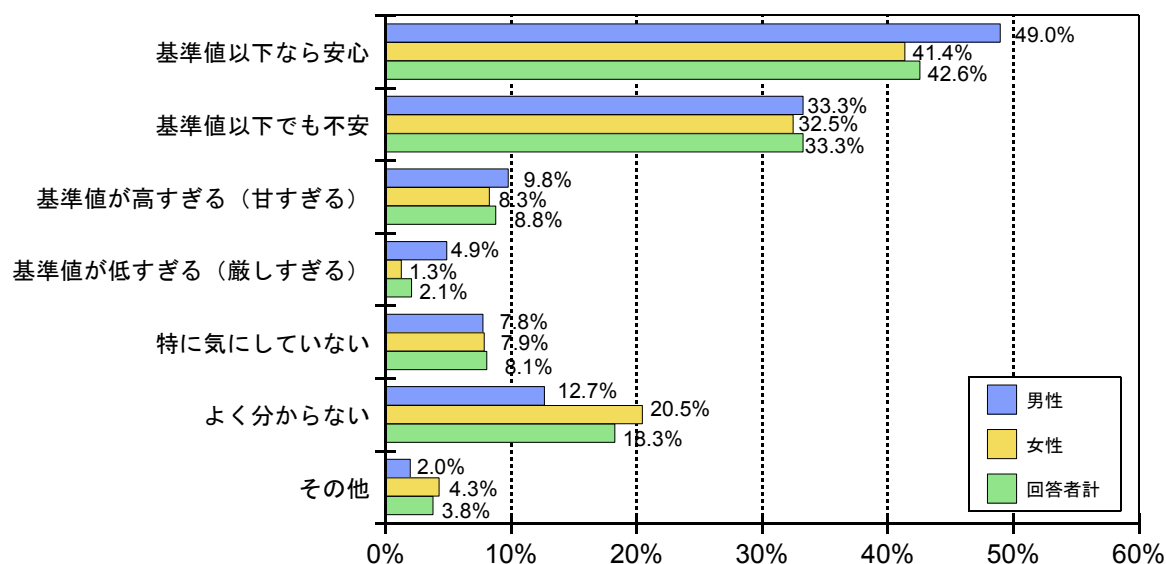


図6-1 基準値に対する意識 (男女別, 複数回答)



参考 (H27) 基準値に対する意識 (男女別, 複数回答)

(注) 選択肢3, 4は、平成27年度は「基準値が高すぎる (甘すぎる)」、「基準値が低すぎる (厳しすぎる)」としていたが、今年度は「基準値はもっと厳しくしたほうがよい」、「基準値はもっと緩めたほうがよい」に改めた。

年代別では「よく分からない」の項目で有意差が見られ、40代の回答割合が高い。

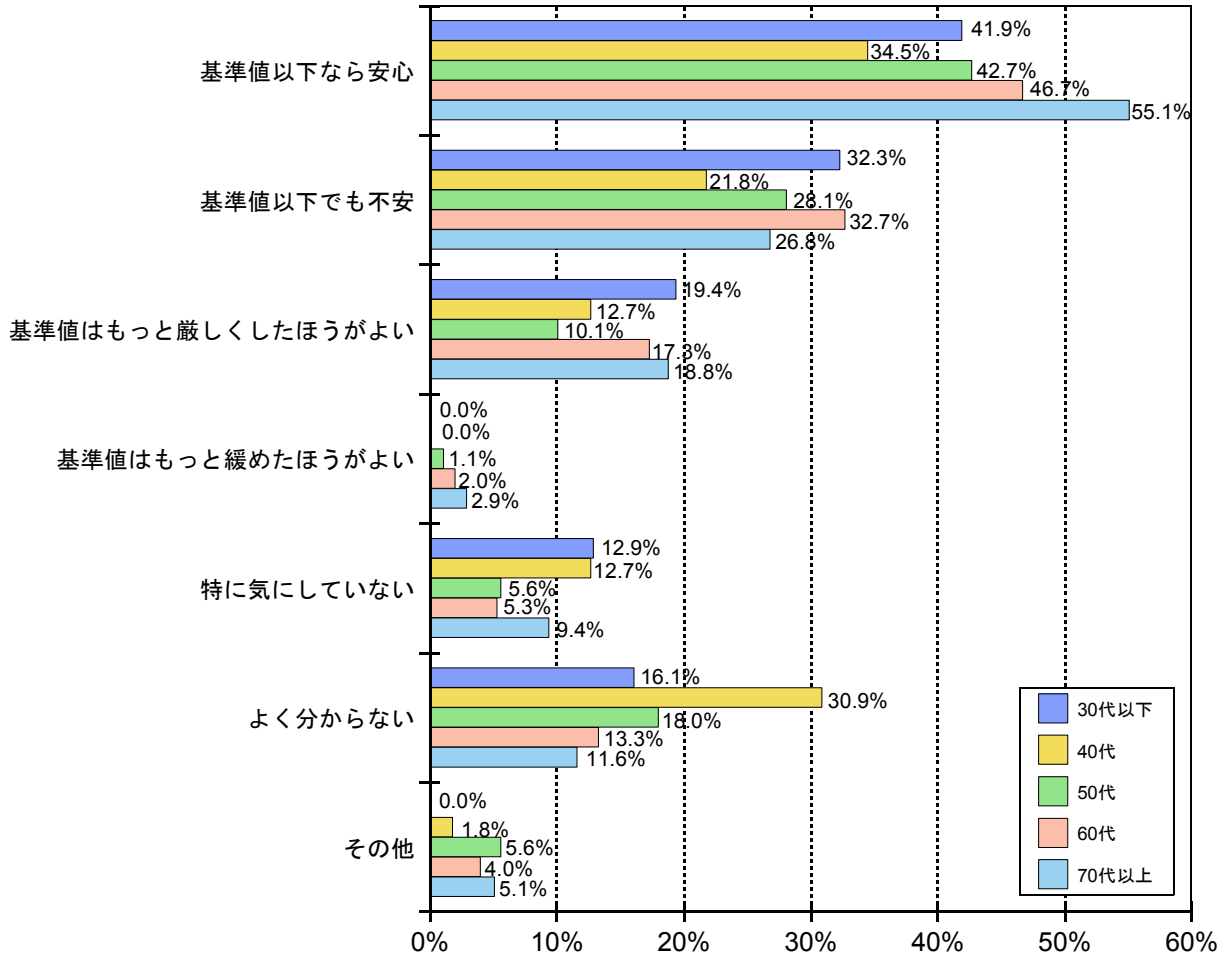


図 6-2 基準値に対する意識（年代別，複数回答）

未成年家族の有無別では，有意差は見られない。

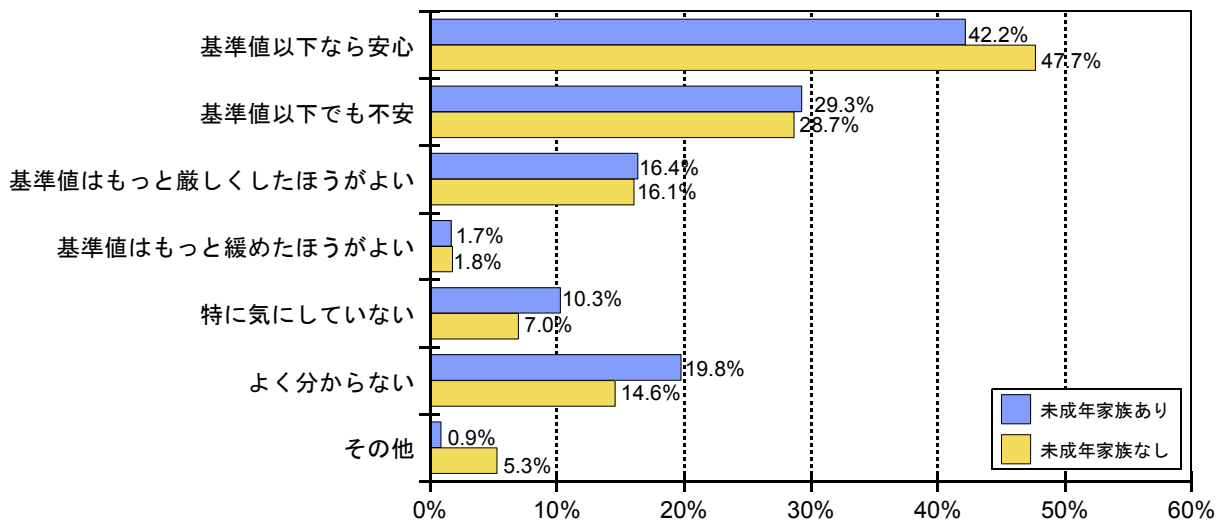


図 6-3 基準値に対する意識（未成年家族の有無別，複数回答）

問7 食品を購入するとき、行政が発表している放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を確認していますか。(単一回答)

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| 1 必ず確認している | 2 たまに確認する |
| 3 売られているものは安全だと思っているので確認しない | 4 気にしていない |
| 5 気にしているが、確認はしていない | 6 その他 |

放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報については、「必ず確認している」(12.4%)、「たまに確認する」(36.9%)を合わせて「確認する」が49.3%で、昨年度と比べて4.6ポイント低下した。一方、「売られているものは安全だと思っているので確認しない」(33.0%)、「気にしていない」(5.2%)は合わせて38.2%で、昨年度と比べて4.4ポイント上昇した。

男女別では、有意差は見られない。

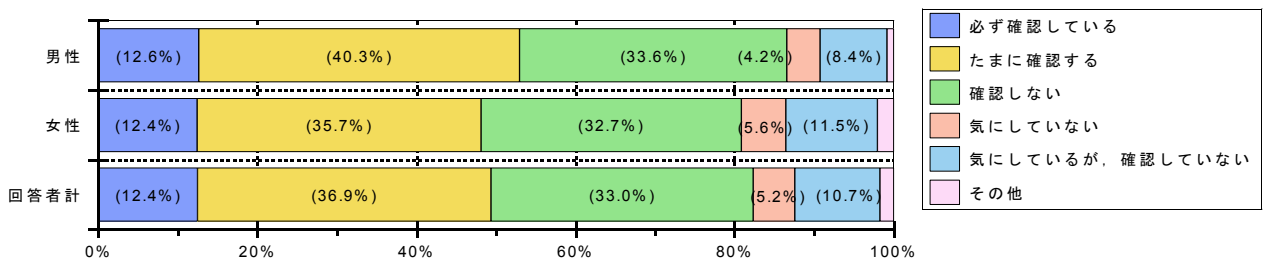
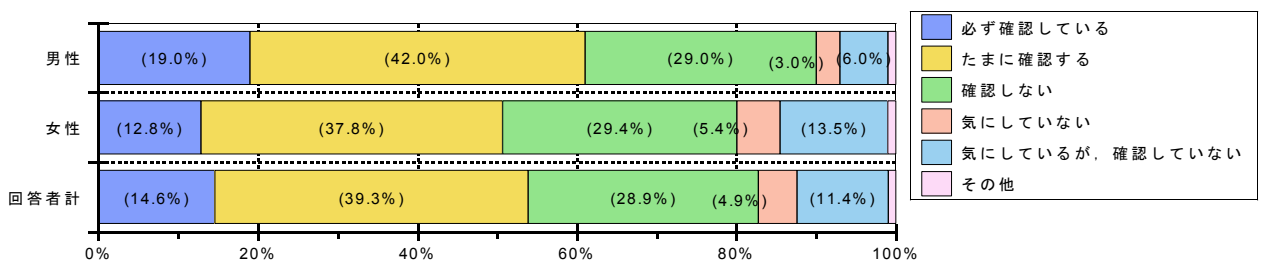


図7-1 放射性物質検出結果等関連情報の確認状況(男女別)



参考(H27) 放射性物質検出結果等関連情報の確認状況(男女別)

年代別では有意差が見られ、「必ず確認している」、「売られているものは安全だと思っているので確認しない」の項目では70代以上の回答割合が高く、40代は低い。「気にしていない」の項目では30代以下及び40代の回答割合が高く、70代以上は低い。「気にしているが、確認はしていない」の項目では40代の回答割合が高く、70代以上は低い。

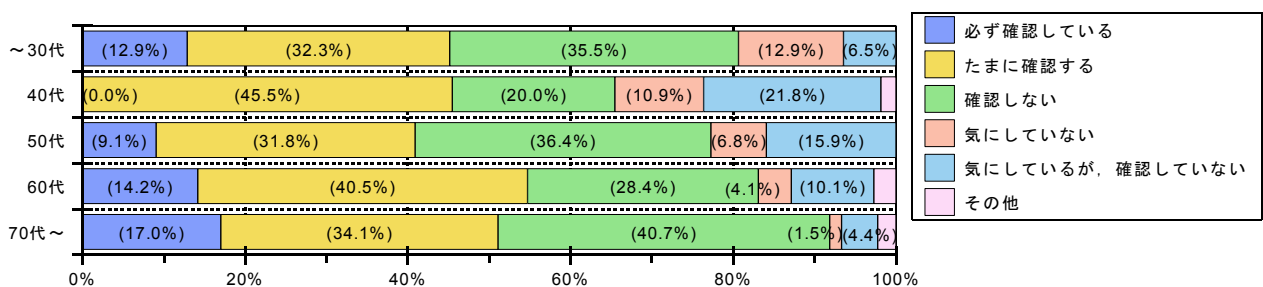


図7-2 放射性物質検出結果等関連情報の確認状況(年代別)

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。

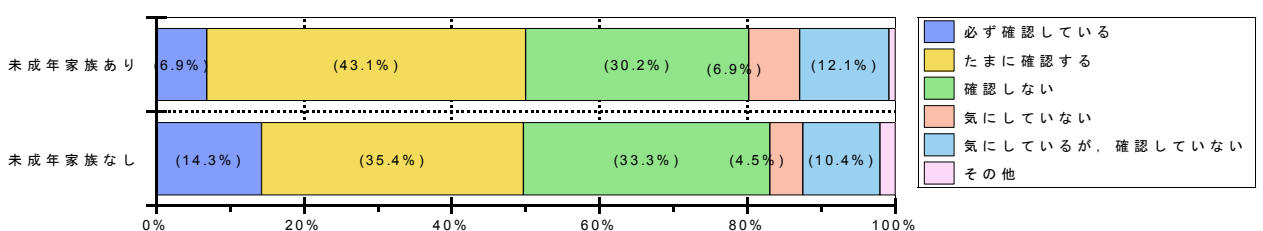


図7-3 放射性物質検出結果等関連情報の確認状況(未成年家族の有無別)

問8 放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を、どのように確認していますか。(複数回答, 問7の1, 2選択者のみ回答)

1 宮城県のホームページ	2 市町村のホームページ	3 新聞
4 テレビ・ラジオ	5 店頭表示	6 家族・友人・知人
7 その他		

食品を購入する時に放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報を確認すると回答した人のうち、放射性物質の検出結果や出荷制限・解除に関する情報の確認方法としては、「新聞」(69.5%)が最も多く、次いで「店頭表示」(44.7%)、「テレビ・ラジオ」(42.5%)、「市町村のホームページ」(26.1%)、「宮城県のホームページ」(24.8%)の順となった。

男女別で「宮城県のホームページ」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。

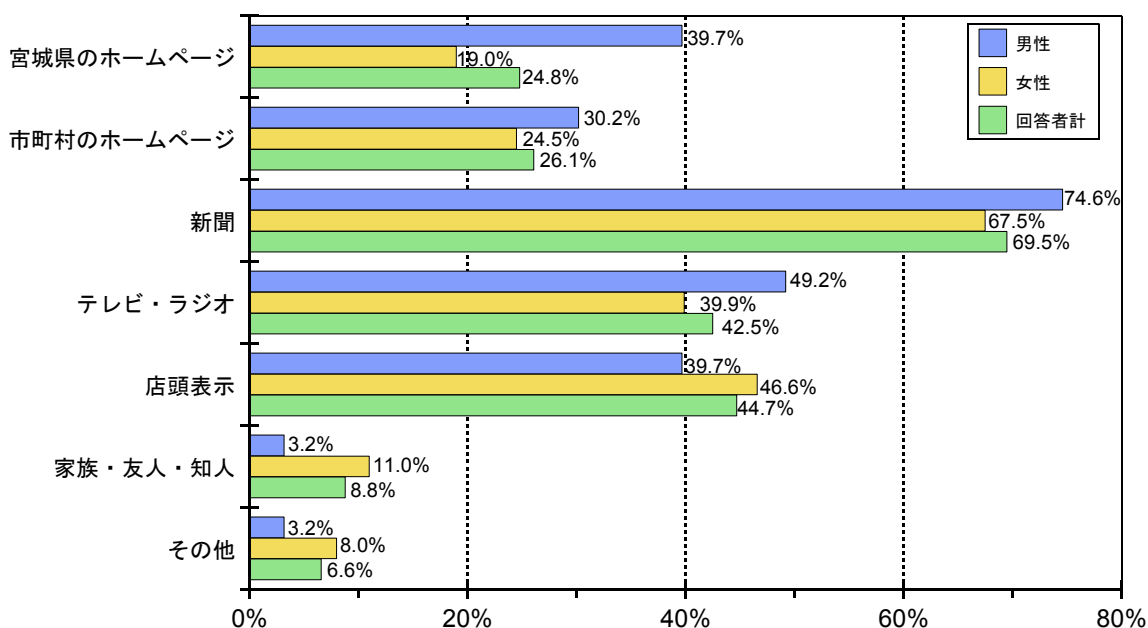
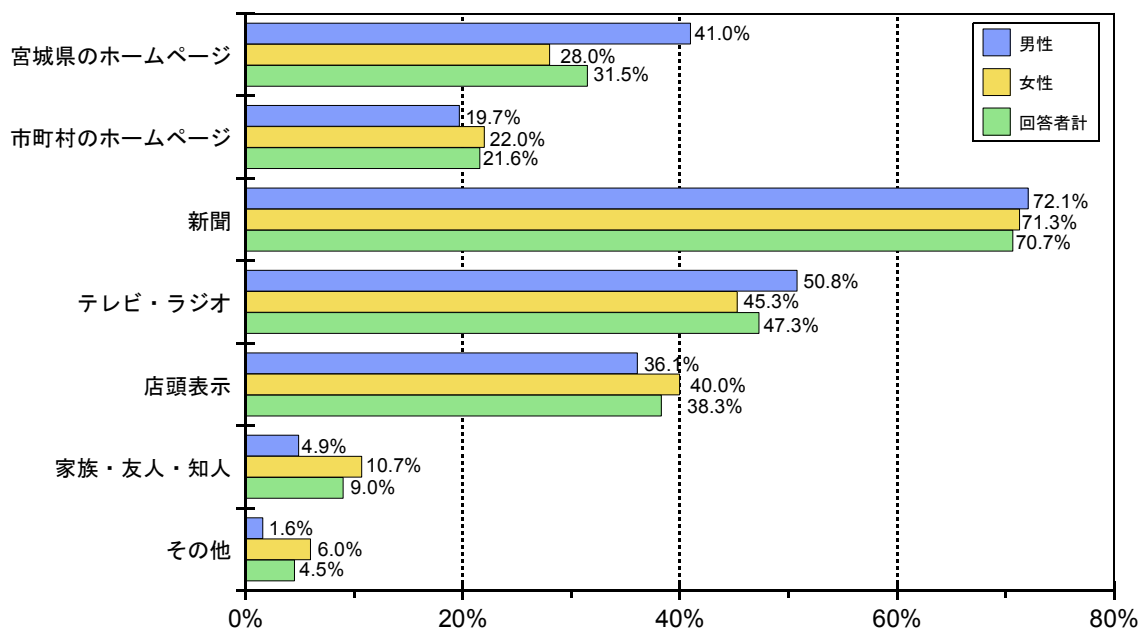


図8-1 放射性物質検出結果の情報の確認方法 (男女別, 複数回答)
 ※問7で1「必ず確認している」または2「たまに確認する」を選択した者のみ回答



参考 (H27) 放射性物質検出結果の情報の確認方法 (男女別, 複数回答)
 ※問7で1「必ず確認している」または2「たまに確認する」を選択した者のみ回答

年代別では「テレビ・ラジオ」の項目で有意差が見られ、70代以上の回答割合が高い。

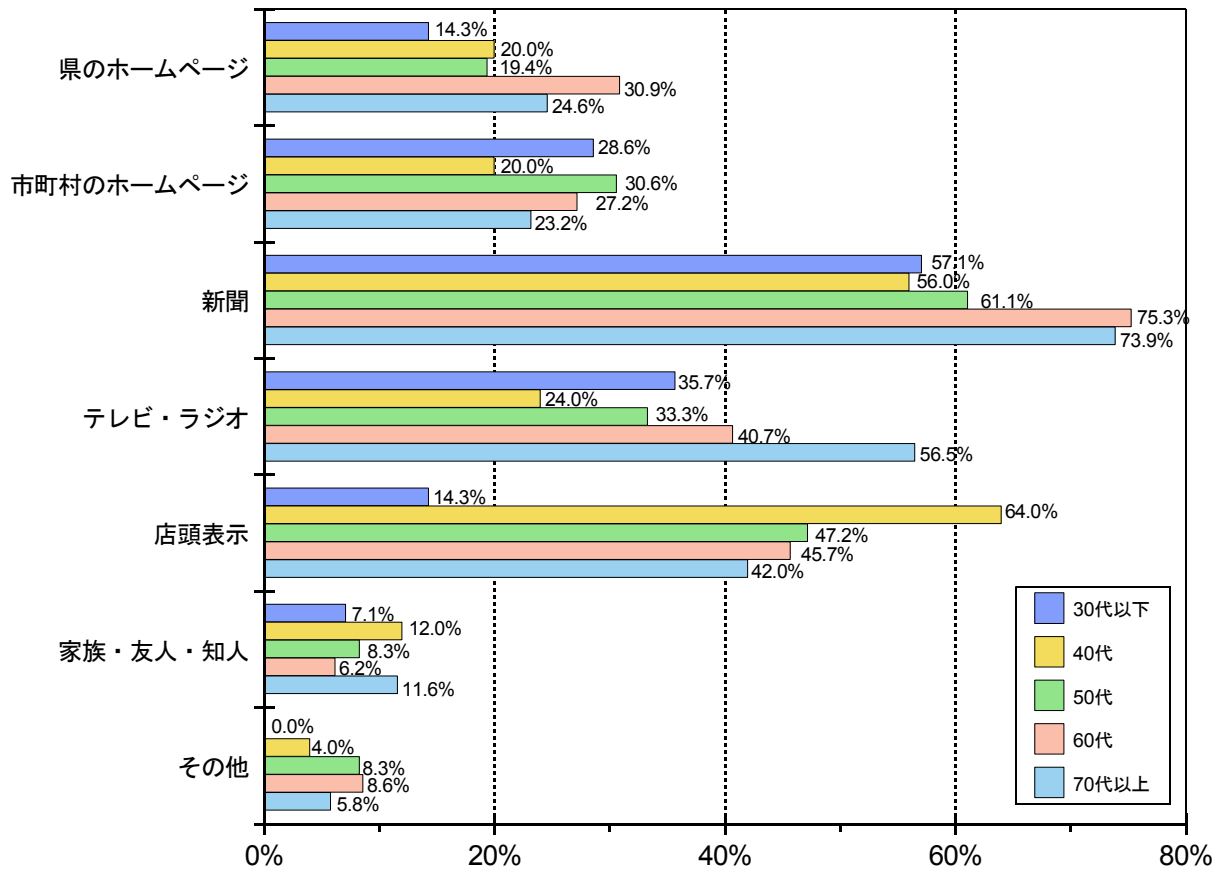


図 8-2 放射性物質検出結果の情報の確認方法（年代別，複数回答）
 ※問 7 で 1 「必ず確認している」または 2 「たまに確認する」を選択した者のみ回答

未成年家族の有無別では，有意差は見られない。

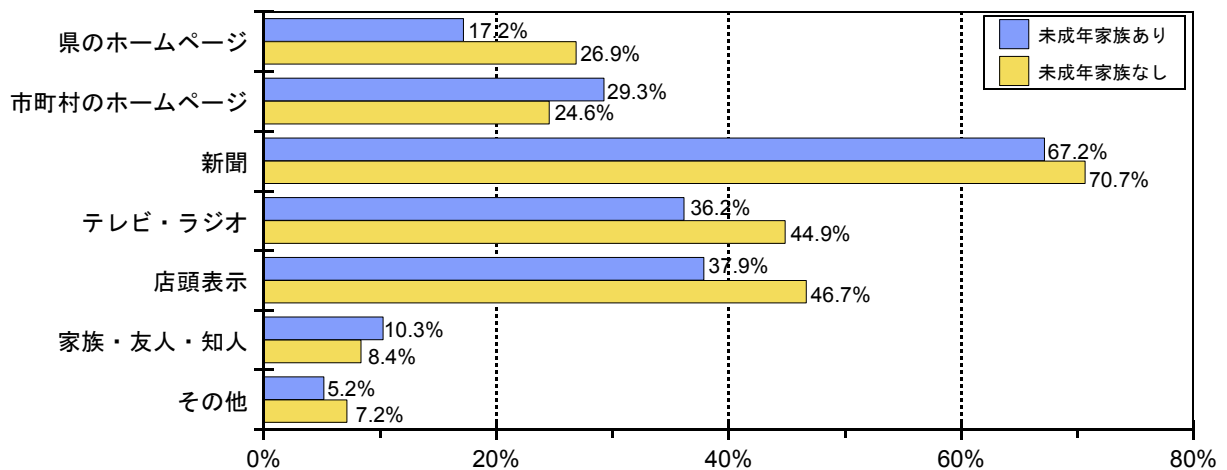


図 8-3 放射性物質検出結果の情報の確認方法（未成年家族の有無別，複数回答）
 ※問 7 で 1 「必ず確認している」または 2 「たまに確認する」を選択した者のみ回答

問9 県が出す食と放射性物質に関する情報は分かりやすいですか。(単一回答)

- | | | |
|-------------|-------------|-----------|
| 1 とても分かりやすい | 2 分かりやすい | 3 どちらでもない |
| 4 分かりにくい | 5 とても分かりにくい | 6 その他 |

県が出す食と放射性物質に関する情報について、「とても分かりやすい」(1.9%)は昨年度と変化はなかった。「とても分かりやすい」、「分かりやすい」(36.7%)を合わせた「分かりやすい」とする回答者は38.6%と、3.0ポイント上昇した。「分かりにくい」(13.0%)、「とても分かりにくい」(2.8%)を合わせた「分かりにくい」とする回答者が15.8%と、0.7ポイント低下した。「分かりやすい」とする回答者、「分かりにくい」とする回答者は、いずれも昨年度と比べて大きな変化は見られない。

男女別では有意差が見られ、「分かりやすい」の項目では男性の回答割合が高く、「どちらでもない」の項目では女性の回答割合が高い。

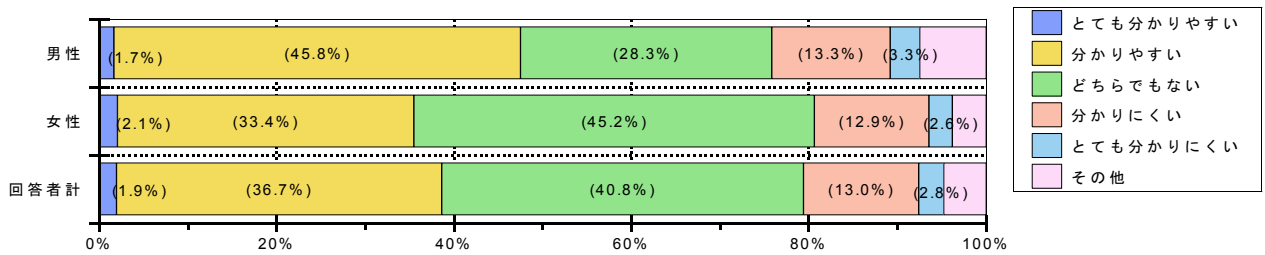
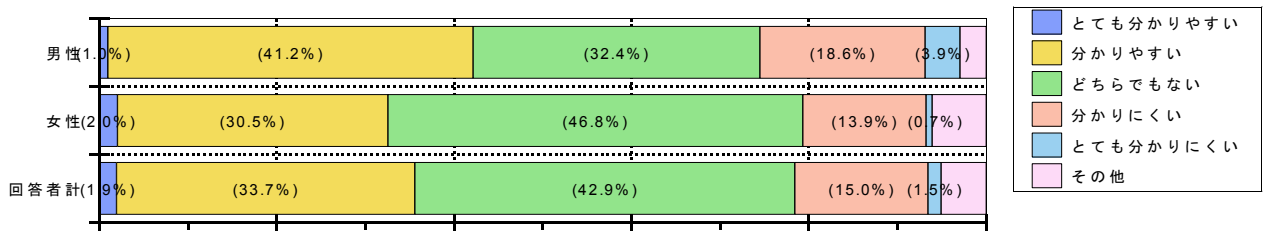


図9-1 県の食と放射性物質に関する情報の分かりやすさ (男女別)



参考 (H27) 県の食と放射性物質に関する情報の分かりやすさ (男女別)

年代別では有意差が見られ、「分かりやすい」の項目では70代以上の回答割合が高く、40代及び50代は低い。「どちらでもない」の項目では30代以下及び40代の回答割合が高く、70代以上は低い。「分かりにくい」の項目では50代の回答割合が高く、70代以上は低い。「とても分かりにくい」の項目では40代の回答割合が高い。

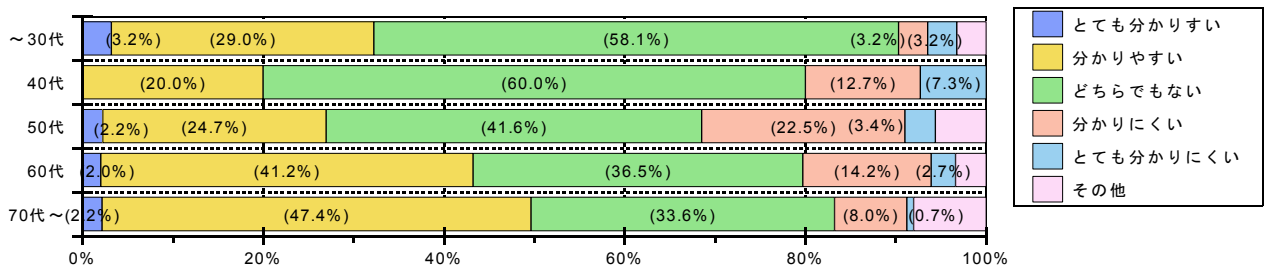


図9-2 県の食と放射性物質に関する情報の分かりやすさ (年代別)

未成年家族の有無別では「どちらでもない」の項目で有意差が見られ、「未成年家族あり」の回答割合が高い。

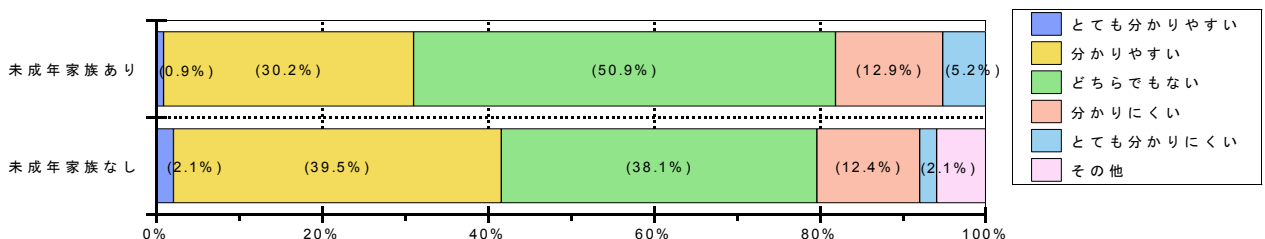


図9-3 県の食と放射性物質に関する情報の分かりやすさ (未成年家族の有無別)

問10 ある産地（市町村単位）で1つの食品について基準値を超える放射性物質が検出された場合の、あなたの購買活動についてお聞きします。（単一回答）

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 | その産地の全ての農畜水産物について購入を控える |
| 2 | 全てではないが、その農畜水産物については、他の産地のものを購入する |
| 3 | 全てではないが、その農畜水産物については、他の産地のものでも購入は控える |
| 4 | 特に気にせず購入する |
| 5 | その他 |

基準値を超える放射性物質が検出された場合の購買活動としては、「全てではないが、その農畜水産物については、他の産地のものを購入する」（68.4%）が最も多く、昨年度から1.1ポイント低下した。また、「その産地の全ての農畜水産物について購入を控える」（13.8%）は昨年度から1.6ポイント低下した。「全てではないが、その農畜水産物については、他の産地のものでも購入は控える」（8.9%）は昨年度より2.4ポイント上昇した。「特に気にせず購入する」（8.0%）は、昨年度より1.0ポイント上昇した。

男女別、年代別、未成年家族の有無別のそれぞれにおいて有意差は見られない。

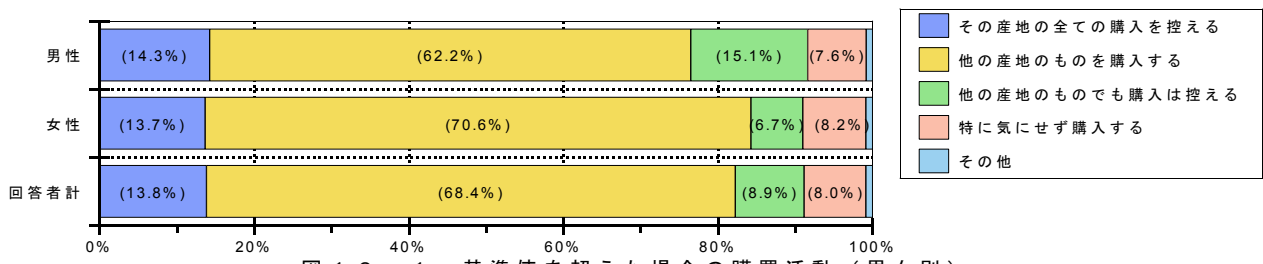
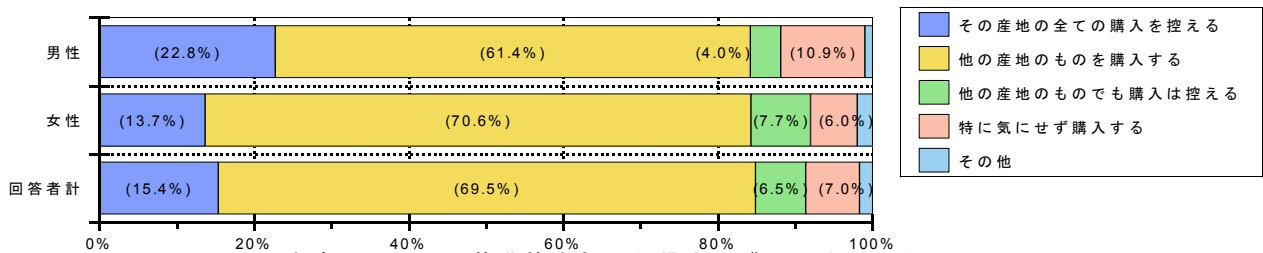


図10-1 基準値を超えた場合の購買活動（男女別）



参考（H27） 基準値を超えた場合の購買活動（男女別）

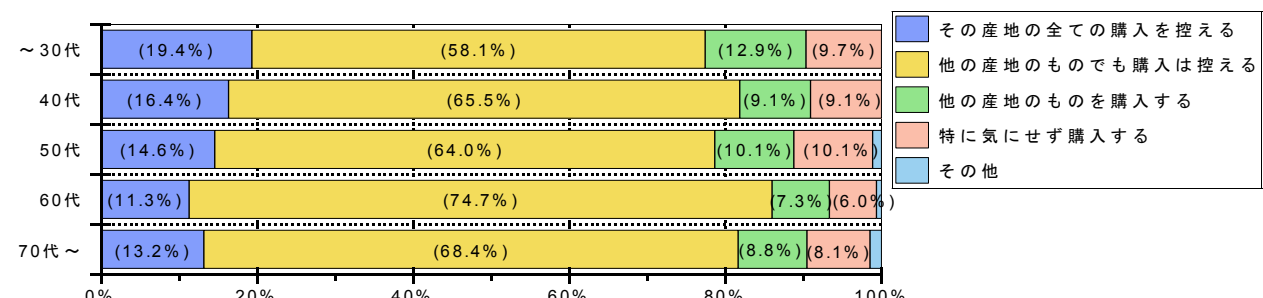


図10-2 基準値を超えた場合の購買活動（年代別）

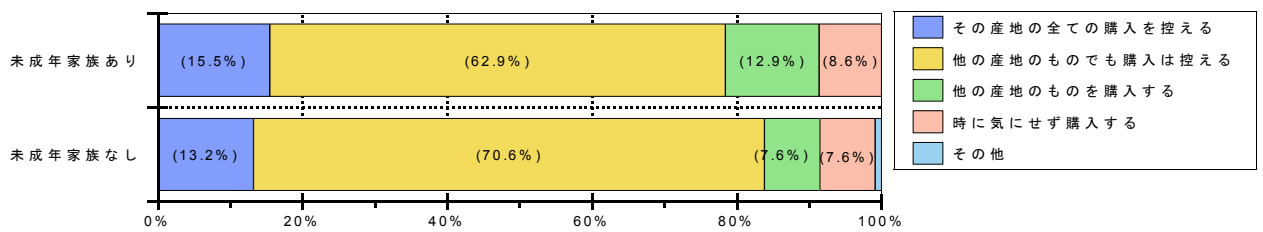


図10-3 基準値を超えた場合の購買活動（未成年家族の有無別）

問 1 1 一度基準値を超えた後に、基準値以下あるいは不検出となった食品について、あなたならどうしますか。(単一回答)

- | | |
|--------------------------|------------|
| 1 検出されていても基準値以下なら食べる | 3 不検出なら食べる |
| 2 基準値以下であっても検出されていけば食べない | 5 その他 |
| 4 不検出であっても不安なので食べない | |

一度基準値を超えた後に基準値以下あるいは不検出となった食品については、「検出されていても基準値以下なら食べる」は昨年度と変わらず20.5%となった。「不検出なら食べる」が42.8%、「基準値以下であっても検出されていけば食べない」が22.5%、「不検出であっても不安なので食べない」が11.8%となった。

男女別では、有意差は見られない。

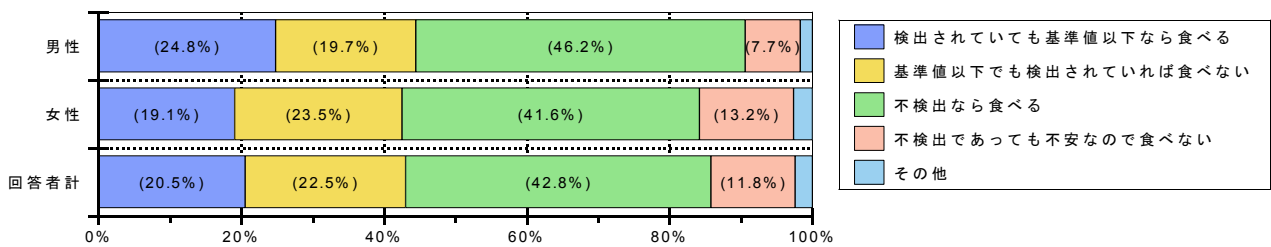
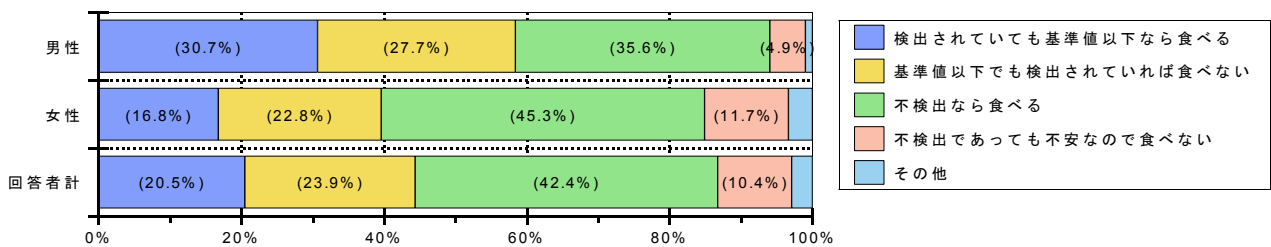


図 1 1 - 1 一度基準値を超えた食品の購買行動 (男女別)



参考 (H27) 一度基準値を超えた食品の購買行動 (男女別)

年代別では、有意差は見られない。

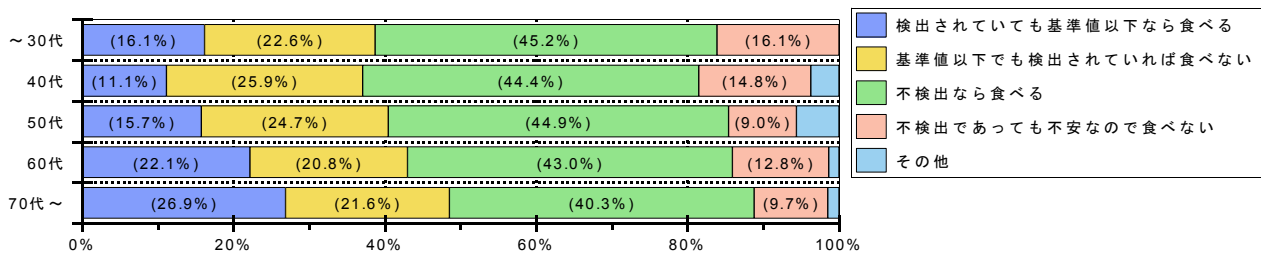


図 1 1 - 2 一度基準値を超えた食品の購買行動 (年代別)

未成年家族の有無別では有意差が見られ、「検出されていても基準値以下なら食べる」の項目では「未成年家族なし」の回答割合が高い。「不検出であっても不安なので食べない」の項目では「未成年家族あり」の回答割合が高い。

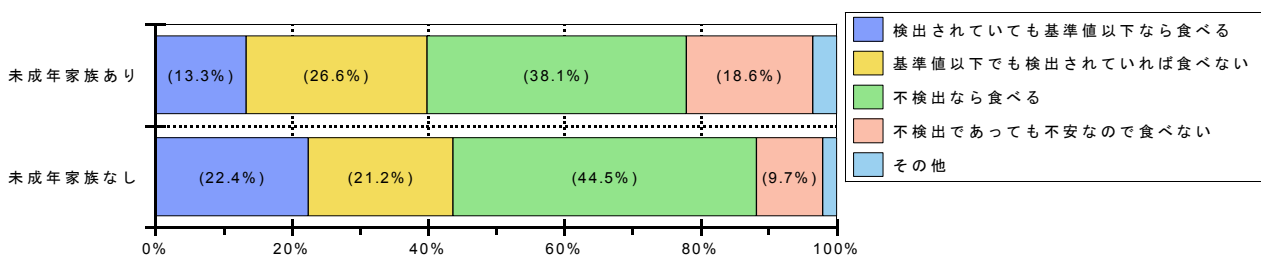


図 1 1 - 3 一度基準値を超えた食品の購買行動 (未成年家族の有無別)

問 1 2 福島第一原子力発電所事故後、食品を購入するとき、何か変わったことはありますか。(複数回答)

- 1 産地表示を必ず確認するようになった
- 2 宮城県産以外のものを買うようになった
- 3 国産より外国産を買うようになった
- 4 復興支援のため、宮城県産のものを積極的に買うようになった
- 5 出荷制限などの情報を積極的に集めるようになった
- 6 店頭に放射性物質関連の情報を表示している店を選んで行くようになった
- 7 水道水の使用には気を遣い、ミネラルウォーターを買うようになった
- 8 特に変わりはない
- 9 その他

原発事故後の食品購入行動の変化としては、「産地表示を必ず確認するようになった」(69.2%)が昨年度より1.6ポイント上昇し最も高く、次いで「復興支援のため、宮城県産のものを積極的に買うようになった」(39.9%)、「出荷制限などの情報を積極的に集めるようになった」(23.7%)の順である。

男女別では、有意差は見られない。

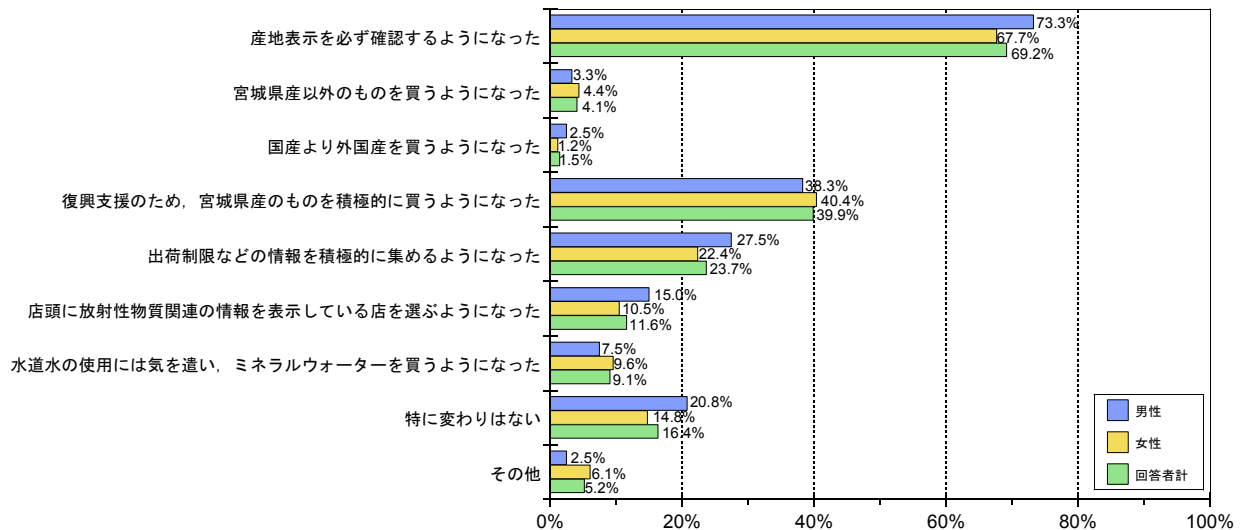
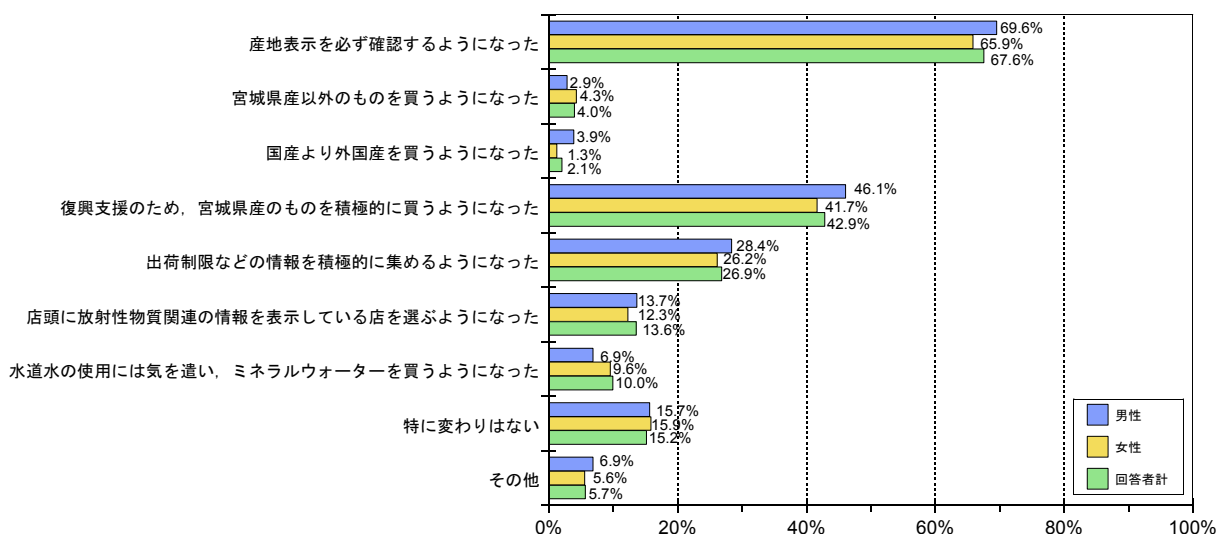


図 1 2 - 1 原発事故後の食品購入行動の変化 (男女別、複数回答)



参考 (H27) 原発事故後の食品購入行動の変化 (男女別、複数回答)

年代別では「復興支援のため、宮城県産のものを積極的に買うようになった」の項目で有意差が見られ、70代以上の回答割合が高く、40代は低い。

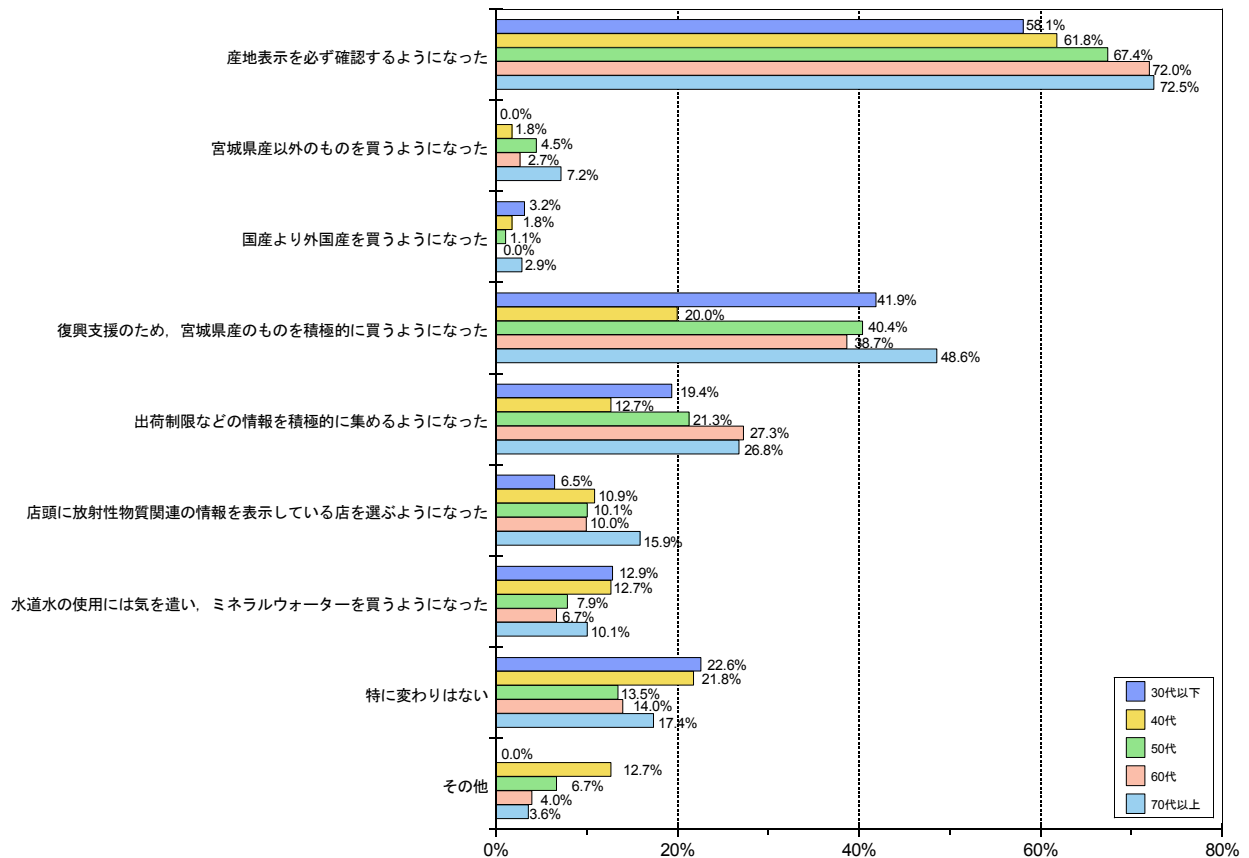


図 1 2 - 2 原発事故後の食品購入行動の変化（年代別、複数回答）

未成年家族の有無別では「復興支援のため、宮城県産のものを積極的に買うようになった」の項目で有意差が見られ、「未成年家族なし」の回答割合が高い。

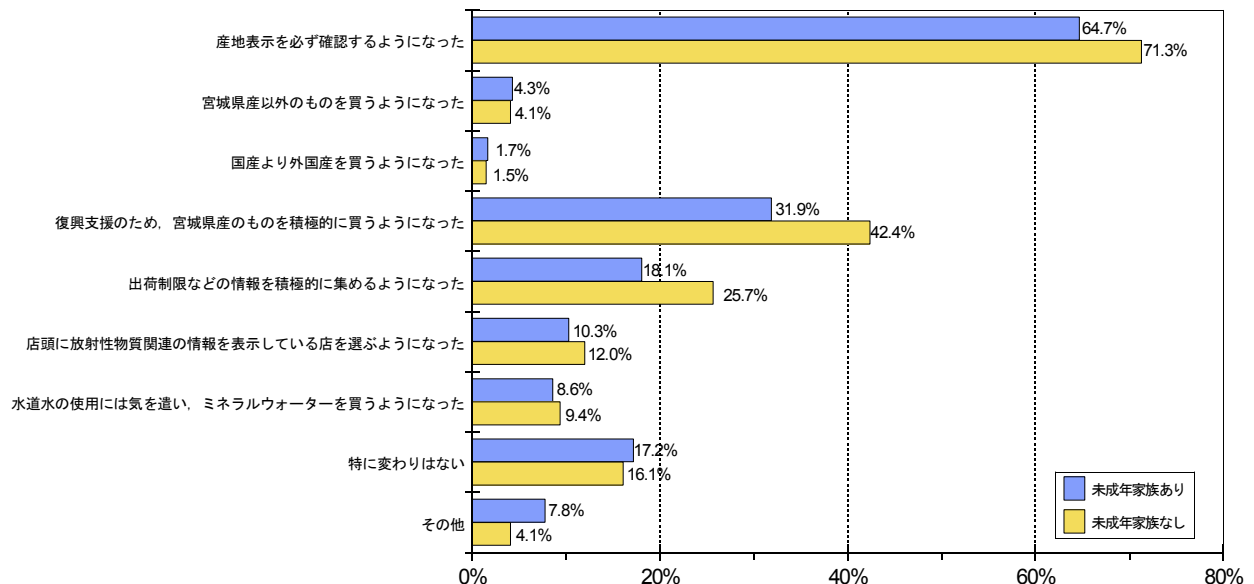


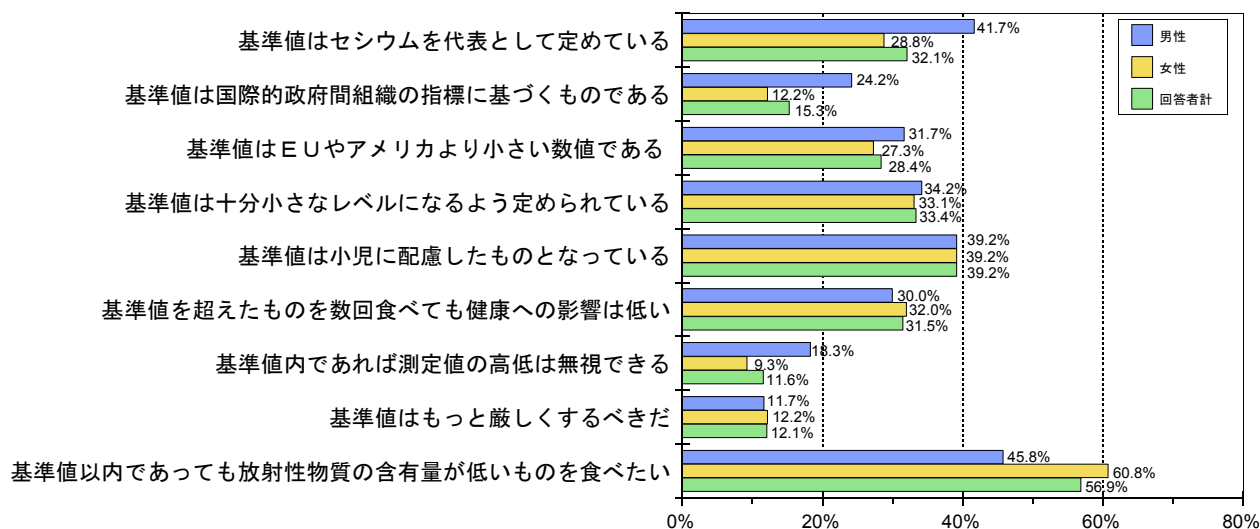
図 1 2 - 3 原発事故後の食品購入行動の変化（未成年家族の有無別、複数回答）

問 1 3 食品中の放射性物質の基準について、あなたが知っていることや思っていることとは何ですか。(複数回答)

- 1 基準値は、他の放射性物質を考慮した上で、セシウムを代表として定めている
- 2 基準値は、事故直後の暫定規制値を改め、国際的政府間組織が、これ以上の措置をとる必要はないとしている指標に基づくものである
- 3 基準値はE Uやアメリカより小さい数値である
- 4 生涯食べ続けても安全になるように、基準値は十分小さなレベルになるよう定められている
- 5 基準値は、一般食品100ベクレル/kgのほか、水10ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳各50ベクレル/kgであり、小児へ配慮したものとなっている
- 6 基準値を超えたものを数回程度食べたとしても、健康への影響は低い
- 7 基準値内であれば、測定値の高低は無視できる
- 8 基準値はもっと厳しくするべきだ
- 9 基準値以内であってもできるだけ放射性物質の含有量が低いものを食べたい

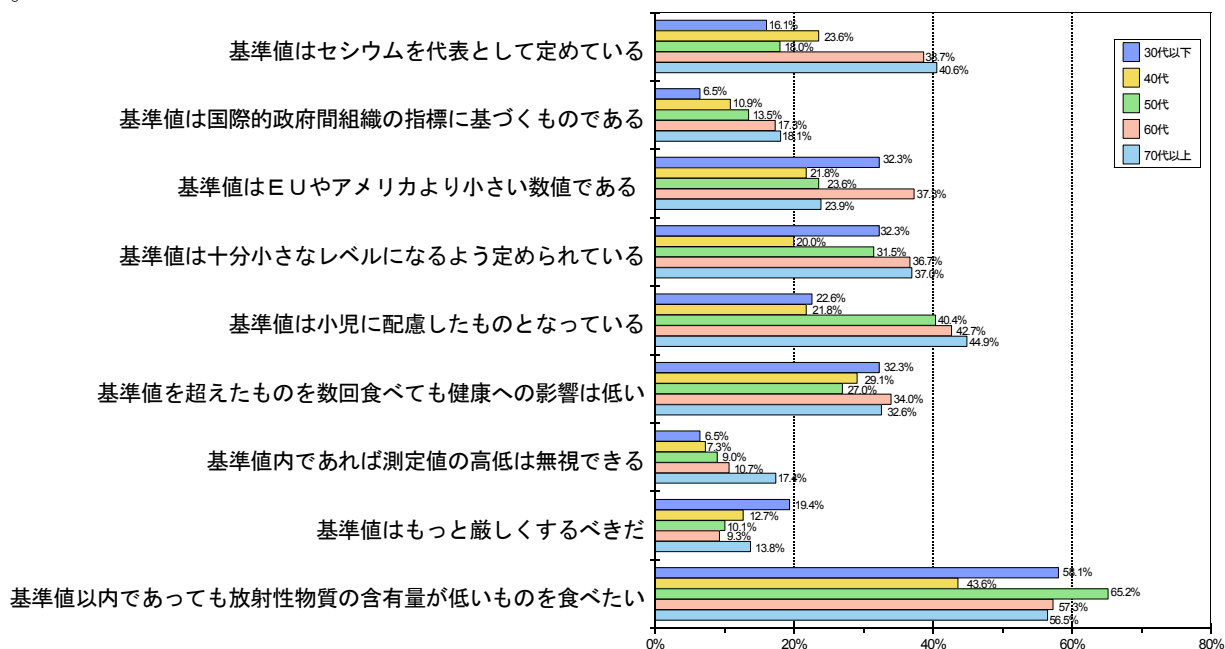
食品中の放射性物質の基準について知っていること、思っていることは、「基準値以内であってもできるだけ放射性物質の含有量が低いものを食べたい」(56.9%)が最も高く、次いで「基準値は、一般食品100ベクレル/kgのほか、水10ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳各50ベクレル/kgであり、小児へ配慮したものとなっている」(39.2%)、「生涯食べ続けても安全になるように、基準値は十分小さなレベルになるよう定められている」(33.4%)の順である。

男女別では有意差が見られ、「基準値は、他の放射性物質を考慮した上で、セシウムを代表として定めている」、「基準値は、事故直後の暫定規制値を改め、国際的政府間組織が、これ以上の措置をとる必要はないとしている指標に基づくものである」、「基準値内であれば、測定値の高低は無視できる」の項目では男性の回答割合が高い。「基準値以内であってもできるだけ放射性物質の含有量が低いものを食べたい」の項目では女性の回答割合が高い。



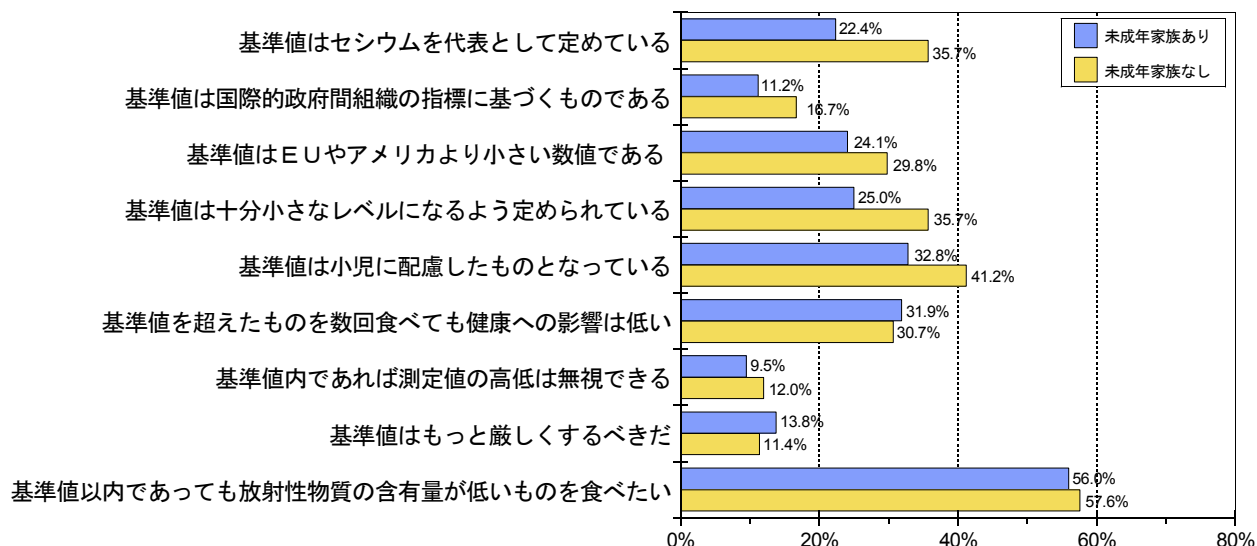
問 1 3 - 1 食品中の放射性物質の基準について、知っていること、思っていること (男女別、複数回答)

年代別では有意差がみられ、「基準値はEUやアメリカより小さい数値である」の項目では60代の回答割合が高い。「生涯食べ続けても安全になるように、基準値は十分小さなレベルになるよう定められている」、「基準値は、一般食品100ベクレル/kgのほか、水10ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳各50ベクレル/kgであり、小児へ配慮したものとなっている」の項目では40代の回答割合が低い。



問13-2 食品中の放射性物質の基準について、知っていること、思っていること（年代別、複数回答）

未成年家族の有無別では有意差が見られ、「基準値は、他の放射性物質を考慮した上で、セシウムを代表として定めている」、「生涯食べ続けても安全になるように、基準値は十分小さなレベルになるよう定められている」、「基準値内であれば、測定値の高低は無視できる」の項目では「未成年家族なし」の回答割合が高い。



問13-3 食品中の放射性物質の基準について、知っていること、思っていること（未成年家族の有無別、複数回答）

(注) 問13は今年度から新たな設問になっているため、昨年度との比較は行わない。

問 1 4 食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けて、行政の取り組みとして必要と思うものは何ですか。（複数回答）

- 1 放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供
- 2 安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説
- 3 検査状況や結果のわかりやすい公表
- 4 県産農産物の安全性のPR
- 5 土壌の除染など、放射性物質の軽減対策の取り組み状況のPR
- 6 特に必要なものはない
- 7 その他

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取り組みとしては、「検査状況や結果のわかりやすい公表」(70.9%)、「県産農産物の安全性のPR」(61.2%)、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」(50.9%)、「土壌の除染など、放射性物質の軽減対策の取り組み状況のPR」(49.1%)、「安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説」(36.2%)の順で要望が高い。

男女別では、有意差は見られない。

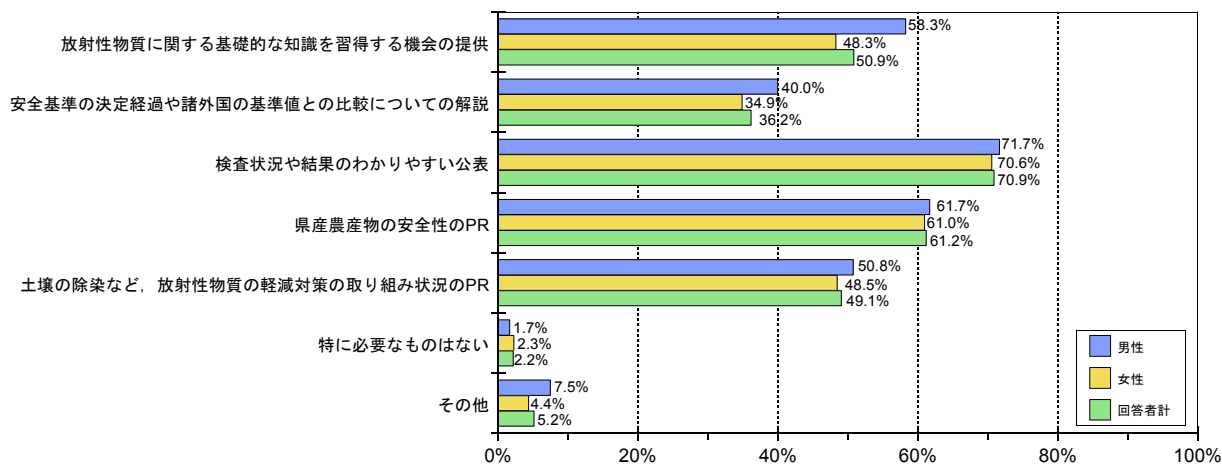
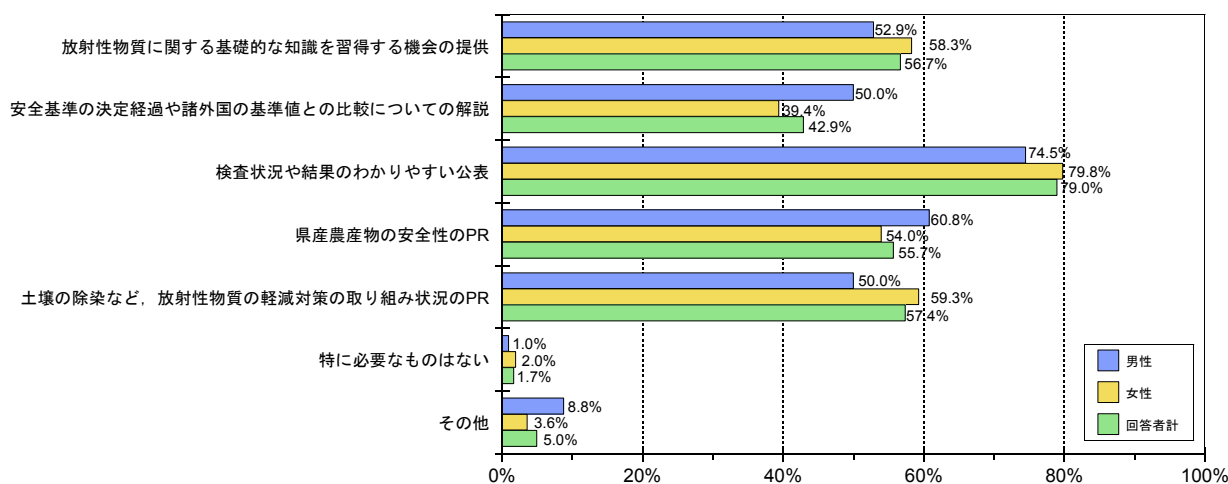


図 1 4 - 1 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（男女別、複数回答）



参考 (H27) 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（男女別、複数回答）

年代別では有意差が見られ、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」の項目では70代以上の回答割合が高く、50代は低い。「安全基準の決定経過や諸外国の基準値との比較についての解説」の項目では70代以上の回答割合が高く、40代及び50代は低い。「検査状況や結果のわかりやすい公表」の項目では70代以上の回答割合が高く、30代以下及び50代は低い。

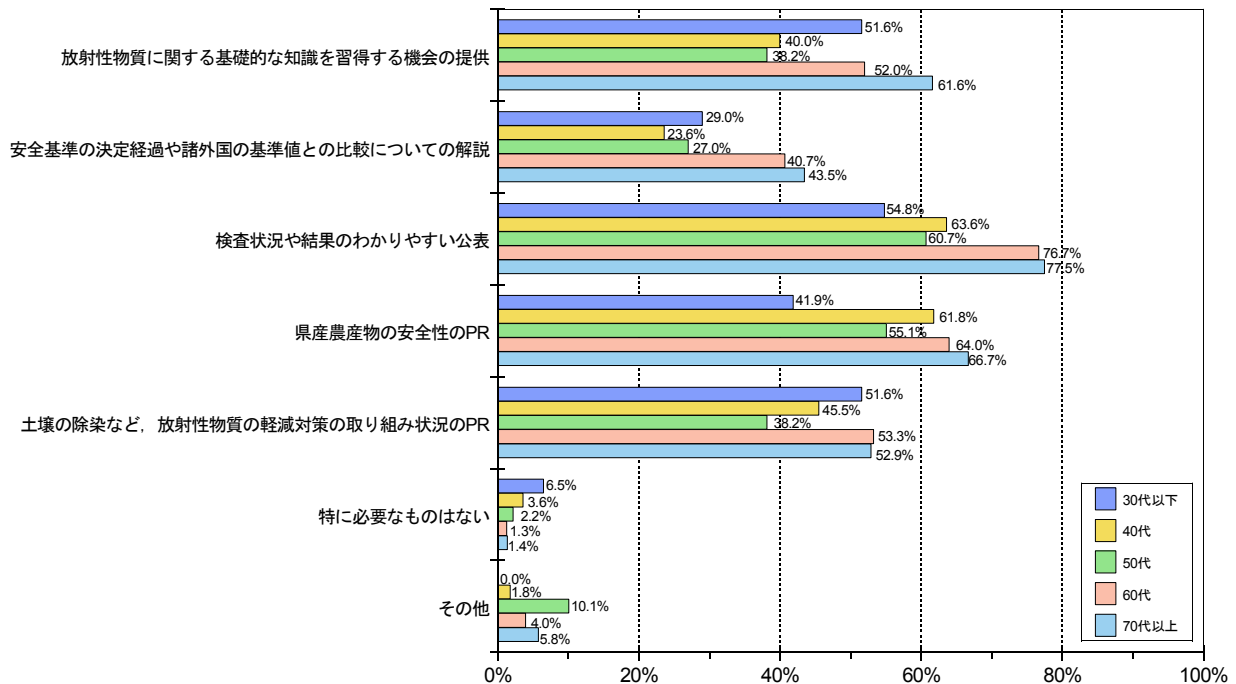


図14-2 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（男女別、複数回答）

未成年家族の有無別では有意差が見られ、「安全基準の決定経過や諸外国の基準値との比較についての解説」、「県産農産物の安全性のPR」の項目では「未成年家族なし」の回答割合が高い。

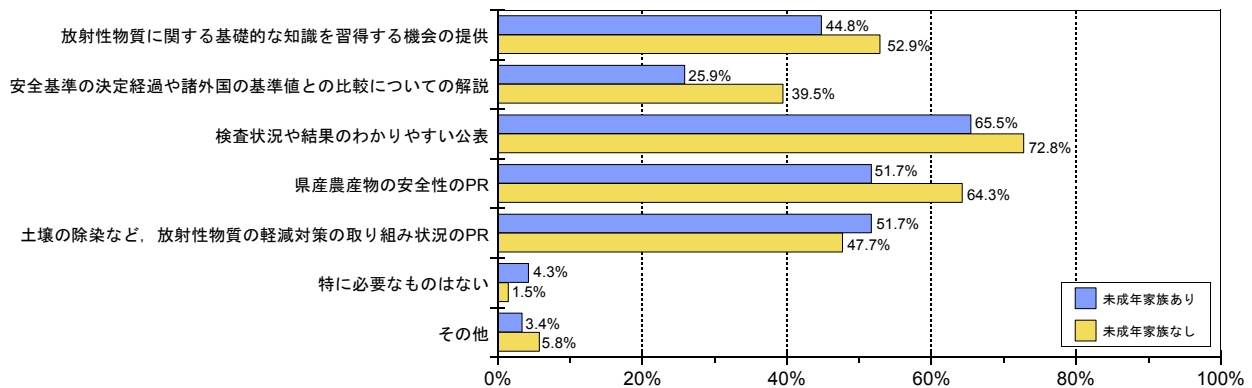


図14-3 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること（未成年家族の有無別、複数回答）

問 15 食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けて、行政の取り組みのほかに必要と思うものはありますか。(複数回答)

- 1 消費者自らが能動的に情報収集しようとする姿勢
- 2 生産者や事業者による安全性確保への取り組みに関する情報発信
- 3 マスコミによる適正な報道
- 4 特に必要なものはない
- 5 その他

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取り組みのほかに必要と思うものは、「マスコミによる適正な報道」(78.2%)が最も高く、次いで「生産者や事業者による安全性確保への取り組みに関する情報発信」(74.8%)、「消費者自らが能動的に情報収集しようとする姿勢」(40.3%)の順であった。

男女別では、有意差は見られない。

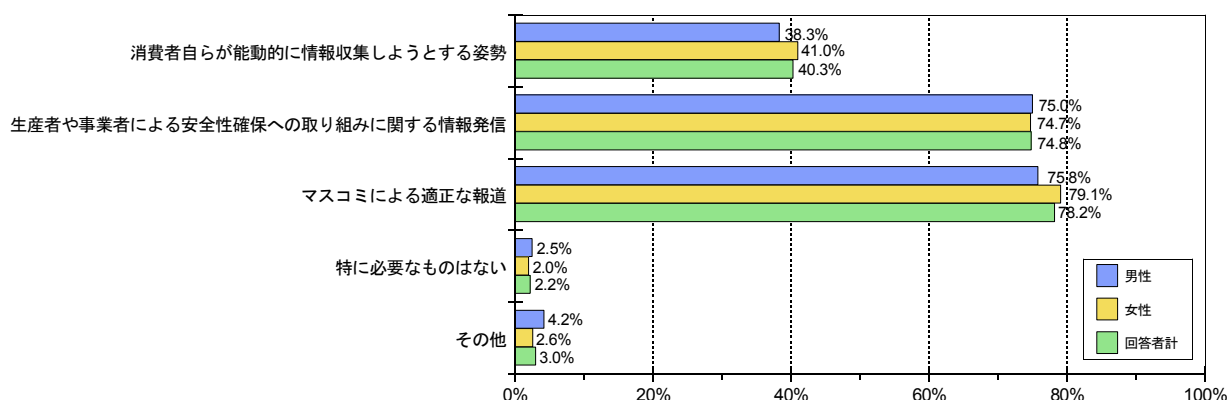
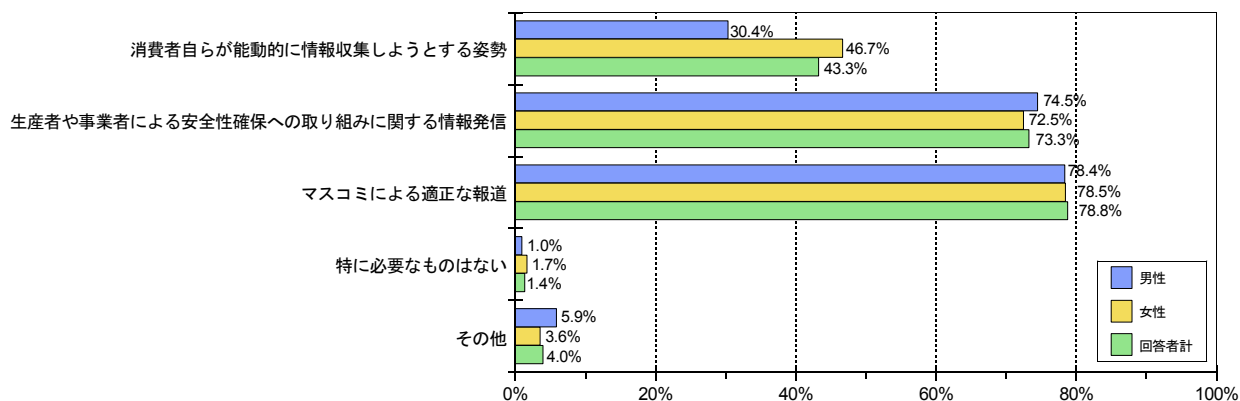


図 15-1 不安や風評被害の解消に向けて行政の取り組みのほかに必要と思うもの (男女別、複数回答)



参考 (H27) 不安や風評被害の解消に向けて行政の取り組みのほかに必要と思うもの (男女別、複数回答)

年代別では「生産者や事業者による安全性確保への取り組みに関する情報発信」の項目で有意差が見られ、60代の回答割合が高く、30代以下及び50代は低い。

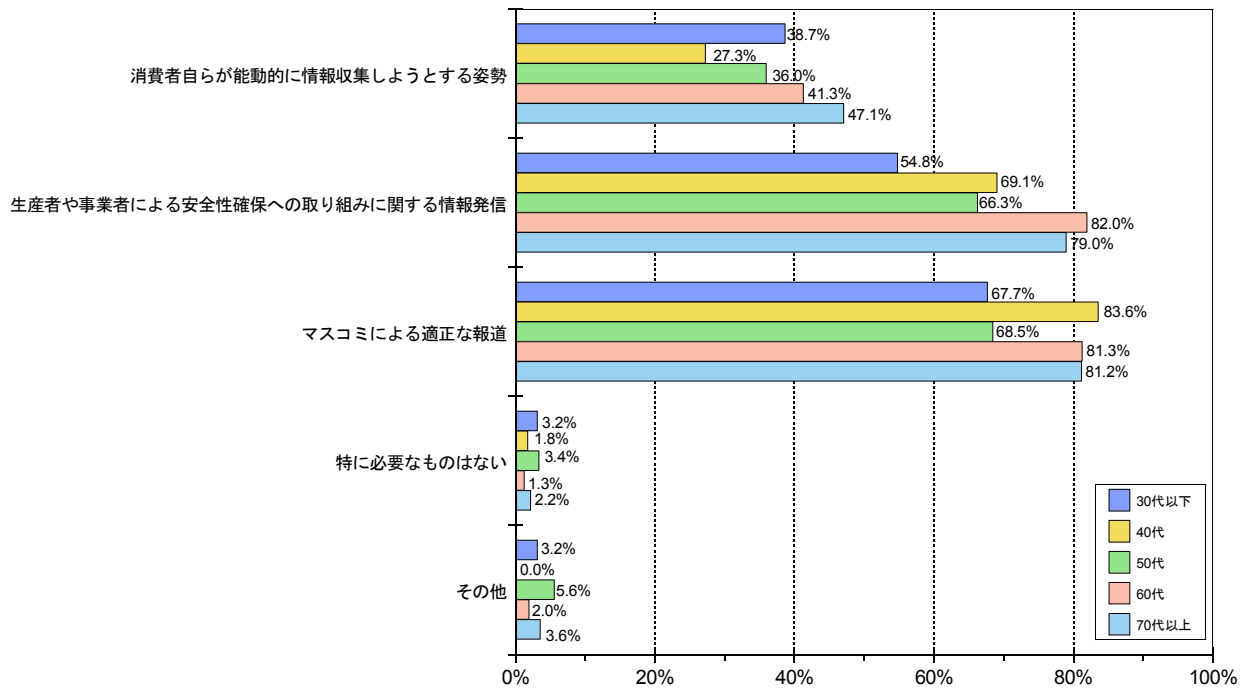


図15-2 不安や風評被害の解消に向けて行政の取り組みのほかに必要と思うもの（年代別、複数回答）

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。

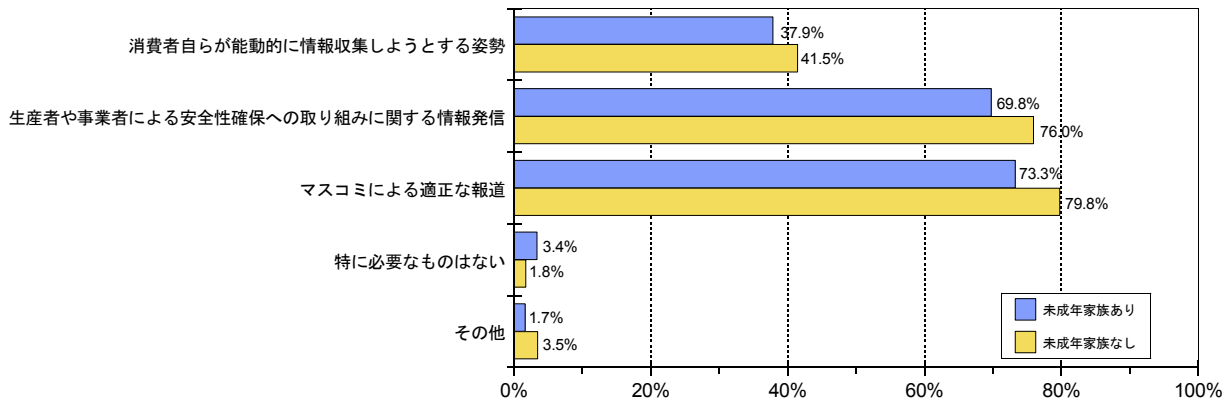


図15-3 不安や風評被害の解消に向けて行政の取り組みのほかに必要と思うもの（未成年家族の有無別、複数回答）

Ⅱ 食の安全安心について

問 16 食の安全安心全般について、不安を感じていますか。(単一回答)

1 不安を感じる	2 やや不安を感じる	3 どちらともいえない
4 あまり不安を感じない	5 全く不安を感じない	6 その他

食の安全安心全般について、「不安を感じる」(15.8%)、「やや不安を感じる」(44.2%)を合わせて60.0%の回答者が不安を感じている。昨年度の結果では、「不安を感じる」(16.8%)、「やや不安を感じる」(49.2%)を合わせて66.0%で、昨年度と比べて6.0ポイント低下している。

男女別、年代別、未成年家族の有無別のそれぞれにおいて、有意差は見られない。

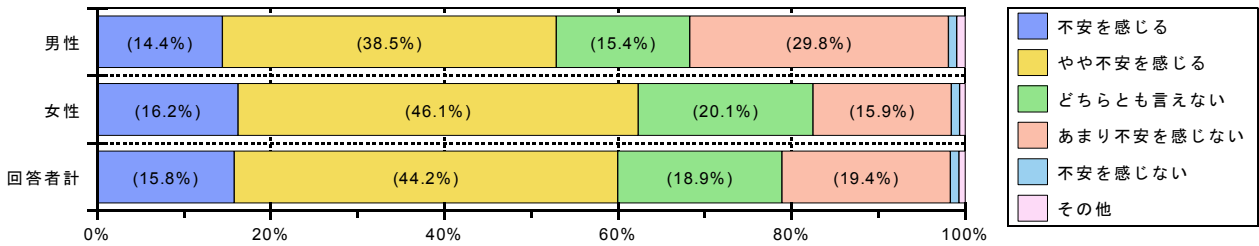
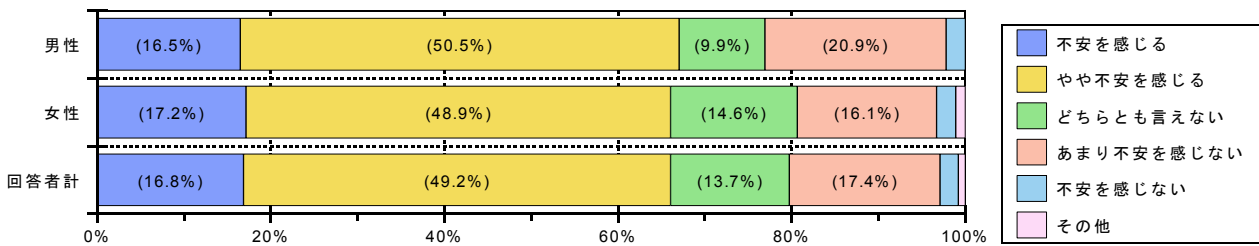


図 16-1 食の安全安心全般についての不安 (男女別)



参考 (H27) 食の安全安心全般についての不安 (男女別)

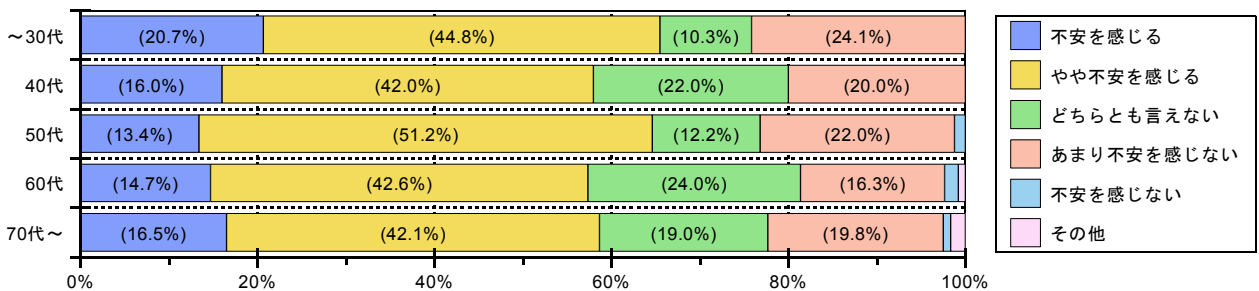


図 16-2 食の安全安心全般についての不安 (年代別)

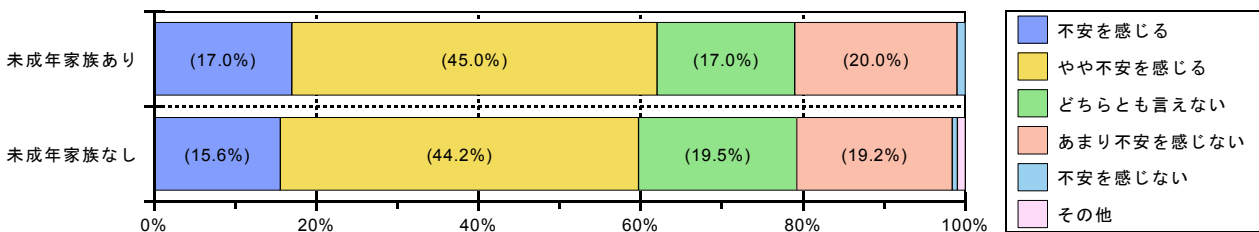


図 16-3 食の安全安心全般についての不安 (未成年家族の有無別)

問17 食の安全性について、下記の項目各々に、どのくらい不安を感じていますか。
(5段階評価)

1 食品添加物について	2 残留抗生物質について	3 環境汚染物質について
4 残留農薬について	5 異物混入について	6 アレルギー物質について
7 有害微生物について	8 家畜伝染病について	9 遺伝子組換え食品について
10 産地表示の信頼性	11 期限表示の信頼性	12 成分表示の信頼性
13 放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性	15 輸入食品の安全性	16 その他

評価	1 強く感じている	2 やや感じている	3 どちらともいえない
	4 あまり感じていない	5 全く感じていない	

不安を感じている項目としては、「輸入食品の安全性」(4.14点)が最も高く、次いで「残留農薬」(4.12点)、「環境汚染物質」(4.09点)、「食品添加物」(4.05点)、「残留抗生物質」(4.02点)の順である。

昨年度のアンケート調査結果では、「輸入食品の安全性」、「残留農薬」、「食品添加物」「環境汚染物質」(同点)、「残留抗生物質」の順であり、今年度は「環境汚染物質」が「食品添加物」より点数が高かった。

平成24年度から項目に加えた「放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性」に対する不安(3.46点)については、昨年度(3.43点)よりわずかに上昇した。

※ポイントは、「強く感じている」を5点、「やや感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じていない」を2点、「全く感じていない」を1点とし、平均したもの。

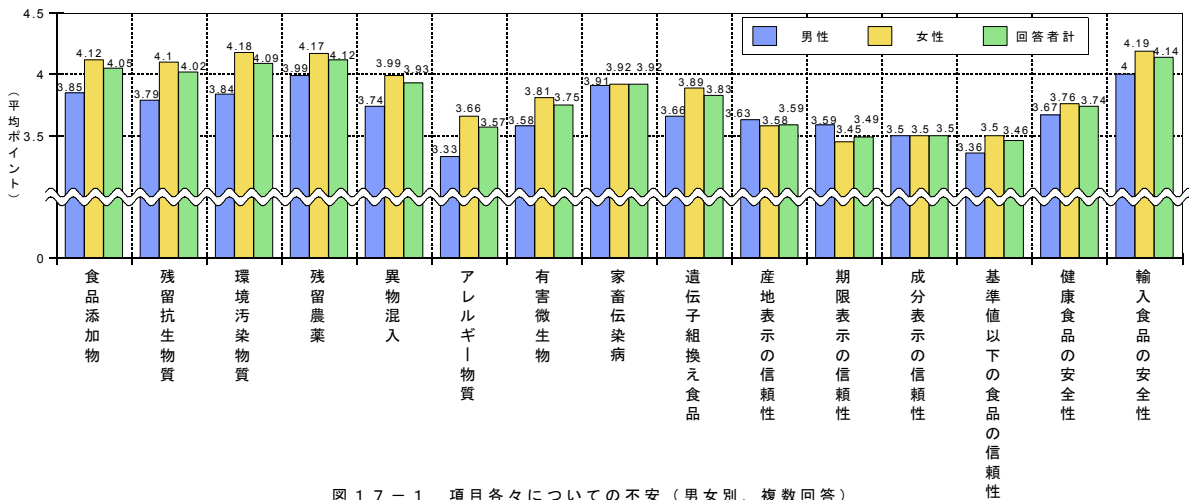
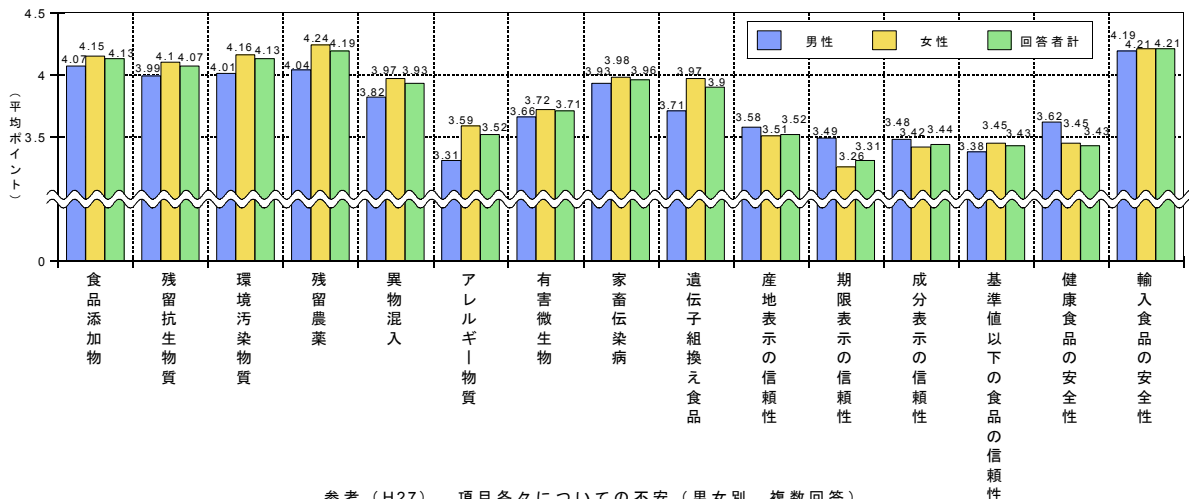


図17-1 項目各々についての不安 (男女別、複数回答)



参考(H27) 項目各々についての不安 (男女別、複数回答)

問 18 昨年と比較して、食の安全安心について意識の変化はありましたか。(単一回答)

- | | | |
|----------------|------------------|-------|
| 1 不安を感じるようになった | 2 やや不安を感じるようになった | |
| 3 変わらない | 4 やや不安を感じなくなった | |
| 5 不安を感じなくなった | 6 以前から不安に思っていない | 7 その他 |

「不安を感じるようになった」(3.8%),「やや不安を感じるようになった」(12.0%)を合わせた15.8%が何らかの不安を感じており、昨年度と比較して4.3ポイント低下した。また、「やや不安を感じなくなった」(16.4%)は昨年度に比べ0.5ポイント上昇し、「不安を感じなくなった」(2.9%)は昨年度に比べ1.1ポイント低下した。少しずつであるが不安を感じる割合が低下している。

男女別, 年代別, 未成年家族の有無別のそれぞれにおいて, 有意差は見られない。

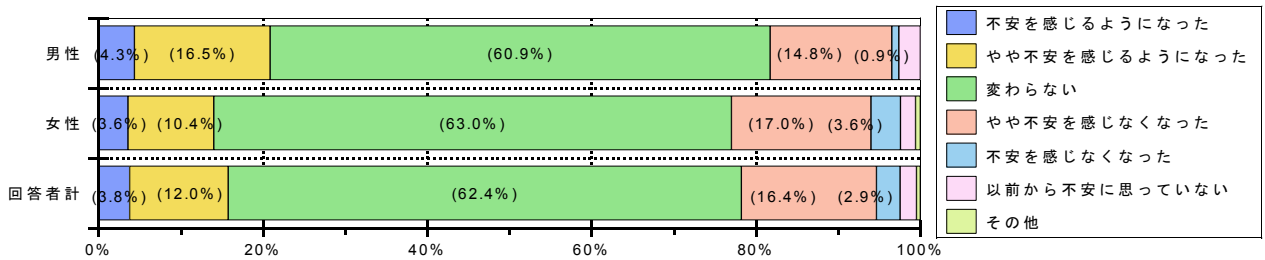
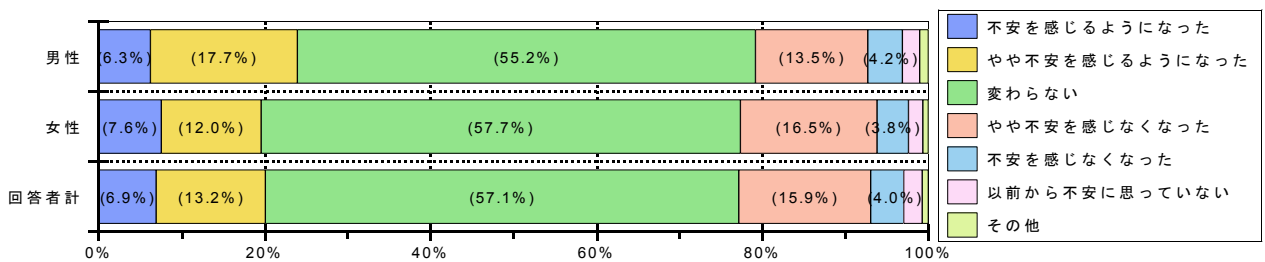


図 18-1 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (男女別)



参考 (H27) 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (男女別)

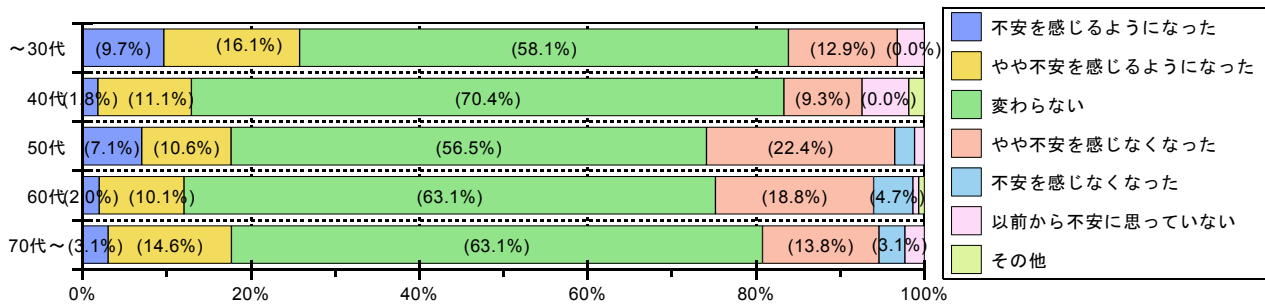


図 18-2 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (年代別)

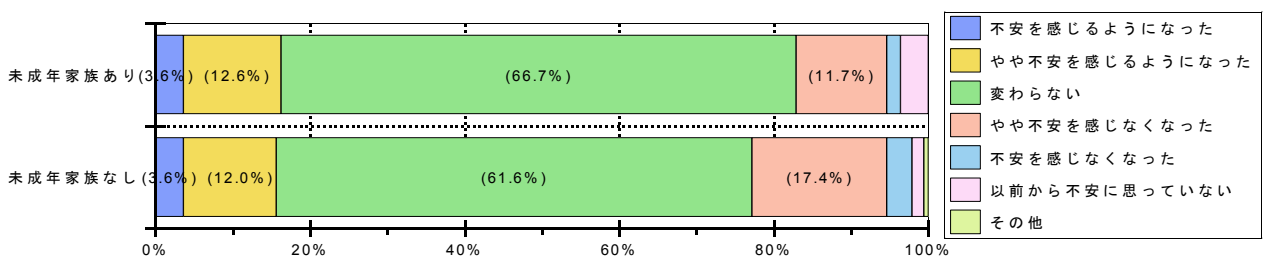


図 18-3 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化 (未成年家族の有無別)

問 19 食品の安全性を確保するための下記の取り組みについて、あなたはどのくらい重要だと思いますか（重要度）。また、その取り組みに対して現在十分に行われていると思いますか（満足度）。（5段階評価）

1 食品関係法令の改正（罰則の強化等）	2 食品の安全性を証明する第三者機関認証
3 食品製造企業の自主管理体制の強化	4 食品の衛生・監視指導の強化（立入検査等）
5 輸入食品の検査体制の強化	6 県民総参加運動の推進
7 消費者への支援強化（機会の提供等）	
8 食に関する正しい情報の提供	9 食品表示の指導・監視体制の強化
10 違反、事件、事故の速やかな情報公開	11 その他

重要度	1 大変重要だと思う 4 あまり重要だと思わない	2 やや重要だと思う 5 全く重要だと思わない	3 どちらともいえない
満足度	1 十分行われている 4 あまり十分でない	2 大体行われている 5 全く不十分である	3 どちらともいえない

食品の安全性を確保するための各取り組みについて、回答者が大変重要だと考える（重要度が高い）が、十分に行われていないと認識している（満足度が低い）取り組みを優先的に取り組むべきと考え、「輸入食品の検査体制の強化」、「違反、事件、事故の速やかな情報公開」、「食品の衛生・監視指導の強化（立入検査等）」、「食品製造企業の自主管理体制の強化」の順であり、昨年度と同様の傾向である。また、この4項目のうち重要度と満足度のポイントの差は「食品の衛生・監視指導の強化」は昨年度と同じだが、その他の3項目は昨年度より縮まっている。

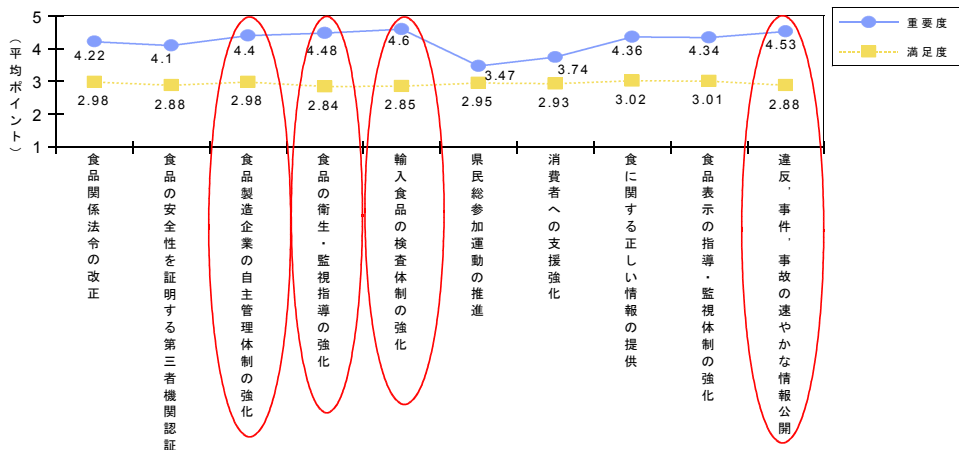
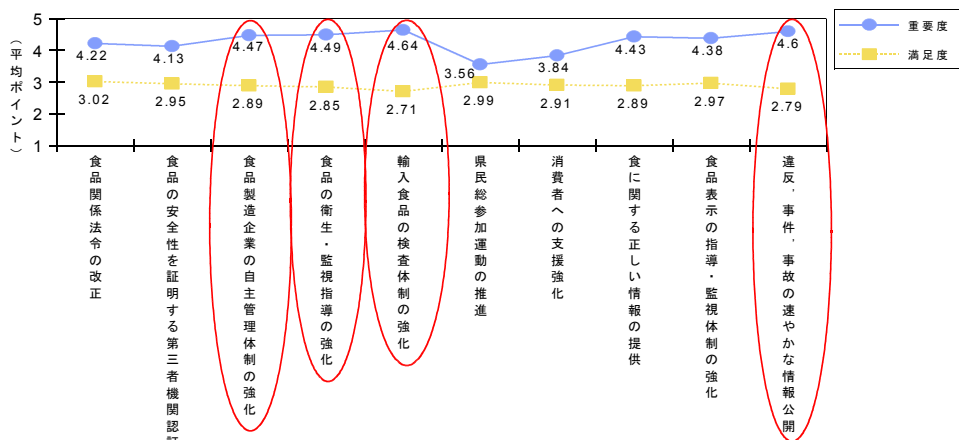


図 19 食品の安全性を確保するための取り組みの重要度と満足度



参考 (H27) 食品の安全性を確保するための取り組みの重要度と満足度

※ポイントは、「大変重要だと思う」「十分行われている」を5点、「やや重要だと思う」「大体行われている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり重要と思わない」「あまり十分でない」を2点、「全く重要と思わない」「全く不十分である」を1点として平均したもの。重要度と満足度のポイントの差から、優先的に取り組むべき項目を判断した。

問 2 0 現在の食に対する価値観について、優先度が高いものはどれですか。
(優先度の高い順に3つ)

- | | | |
|-----------------------|--------------|------------|
| 1 美味しいものを追求したい | 2 高価なものを摂りたい | 3 健康に配慮したい |
| 4 安全性に配慮したい | 5 食費を節約したい | |
| 6 価格にこだわらず、国産品にこだわりたい | | |
| 7 価格にこだわらず、県産品にこだわりたい | 8 その他 | |

現在の食に対する価値観について、1位～3位に挙げられた項目を単純合計すると、食に対する価値観としては、「安全性に配慮したい」(404人)、「健康に配慮したい」(403人)と回答する人が圧倒的に多く、次いで「美味しいものを追求したい」(174人)、「価格にこだわらず、国産品にこだわりたい」(157人)、「食費を節約したい」(119人)、「価格にこだわらず、県産品にこだわりたい」(86人)の順であった。

昨年度の結果と同様の傾向となっている。

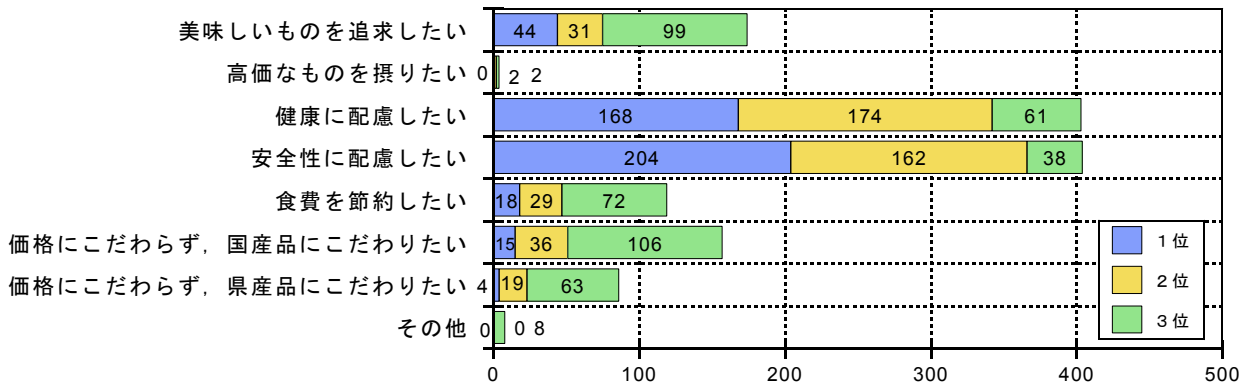
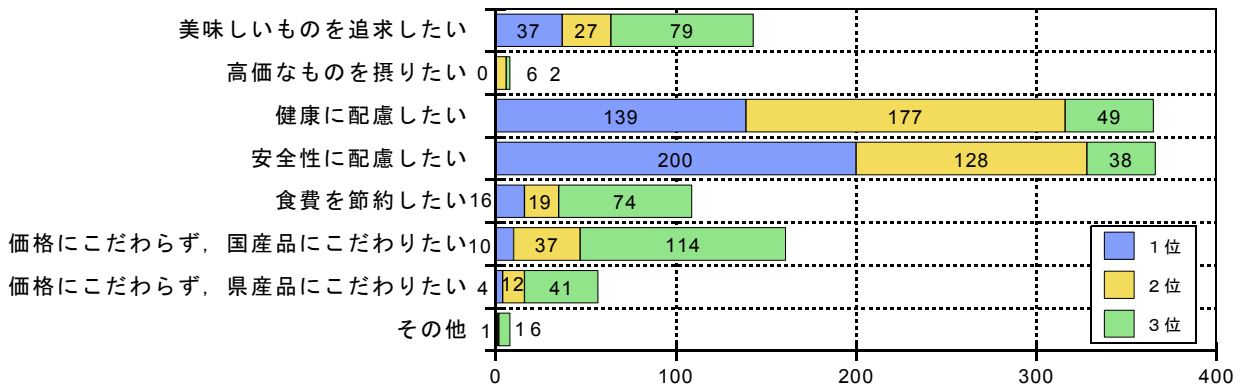


図 2 0 - 1 食に対する価値観 (単純合計)



参考 (H27) 食に対する価値観 (単純合計)

男女別では、有意差は見られない。

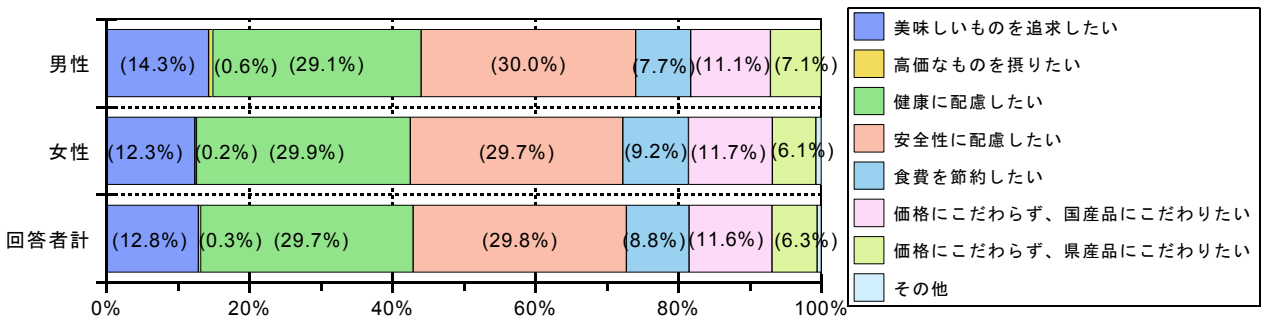


図 2 0 - 2 食に対する価値観 (単純合計, 男女別)

年代別では有意差が見られ、「高価なものを摂りたい」の項目では70代以上の回答割合が高い。「食費を節約したい」の項目では40代の回答割合が高く、70代以上は低い。「価格にこだわらず、県産品にこだわりたい」の項目では40代の回答割合が低い。

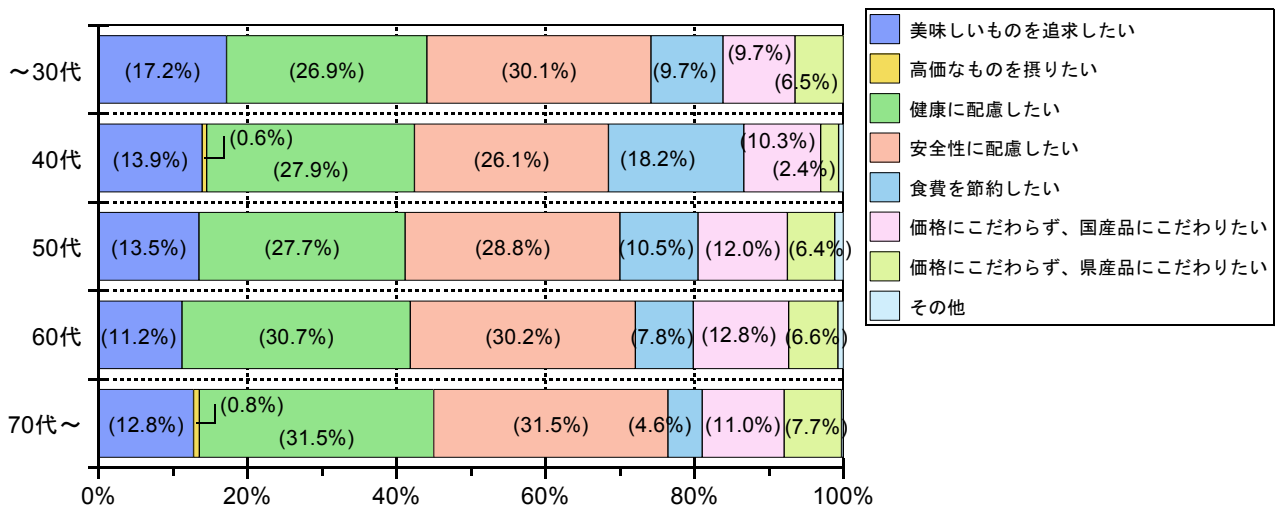


図 20-3 食に対する価値観（単純合計，年代別）

未成年家族の有無別では「食費を節約したい」の項目で有意差が見られ、「未成年家族あり」の回答割合が高い。

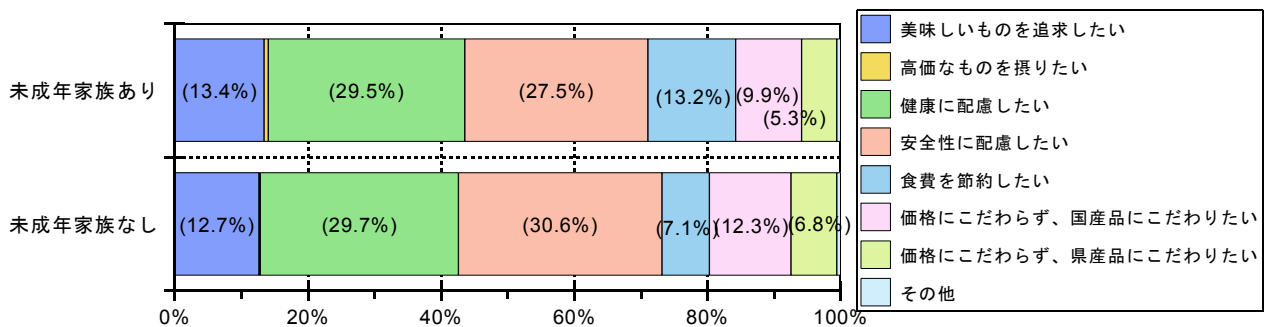


図 20-4 食に対する価値観（単純合計，未成年家族の有無別）

問 2 1 さらなる食の安全安心に向けた取り組みを実践するために、県が取り組むべきこととして望むのはどれですか。（複数回答）

- 1 生産者の取り組みへの支援
- 2 安全な農水産物生産環境づくり支援
- 3 食関連事業者に対する支援
- 4 生産者に対する安全性の監視及び指導の徹底
- 5 食関連事業者に対する安全性の監視及び指導の徹底
- 6 食品表示の適正化の推進
- 7 情報の収集、分析及び公開
- 8 消費者、生産者及び食関連事業者との相互理解の促進
- 9 県民総参加運動の展開
- 10 県民意見の施策への反映
- 11 (県の)体制の整備及び関係機関等との連携強化
- 12 審議会（「みやぎ食の安全安心推進会議」）の機能強化
- 13 その他

食の安全安心に向けて、県が取り組むべきこととして望まれているのは、回答割合が高い順に「食関連事業者に対する安全性の監視及び指導の徹底」（63.4%）、「安全な農水産物生産環境づくり支援」（62.9%）、「生産者の取り組みへの支援」（61.6%）、「生産者に対する安全性の監視及び指導の徹底」（61.2%）、「食品表示の適正化の推進」（51.5%）となった。昨年度同様、生産者や食関連事業者への監視及び指導の徹底、支援を求める意向が強い。

男女別では「審議会（「みやぎ食の安全安心推進会議」）の機能強化」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。

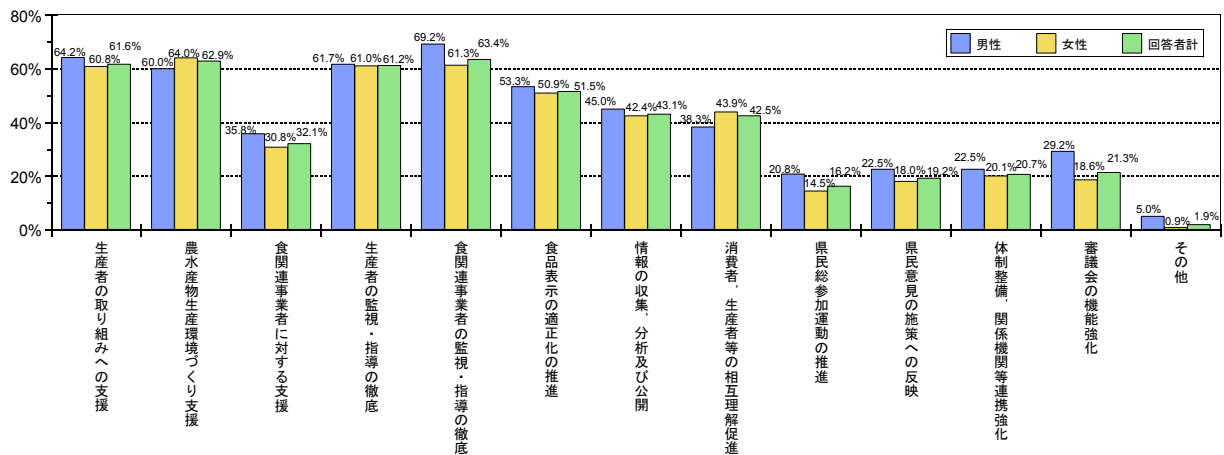
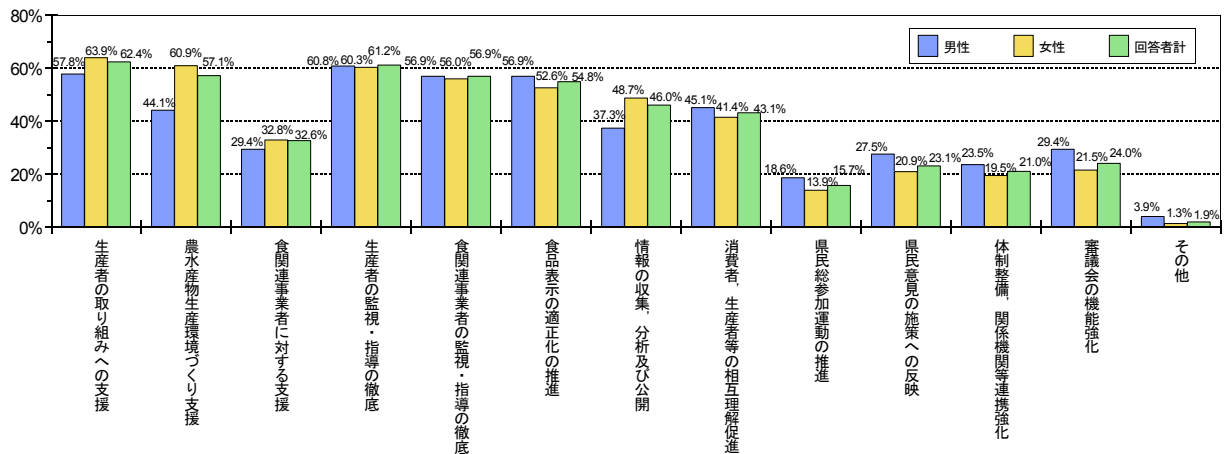


図 2 1 - 1 食の安全安心に向けて取り組むべきこと（男女別、複数回答）



参考 (H27) 食の安全安心に向けて取り組むべきこと（男女別、複数回答）

年代別では有意差が見られ、「食関連事業者に対する安全性の監視及び指導の徹底」の項目では60代の回答割合が高く、30代以下は低い。「審議会（「みやぎ食の安全安心推進会議」）の機能強化」の項目では60代の回答割合が高い。

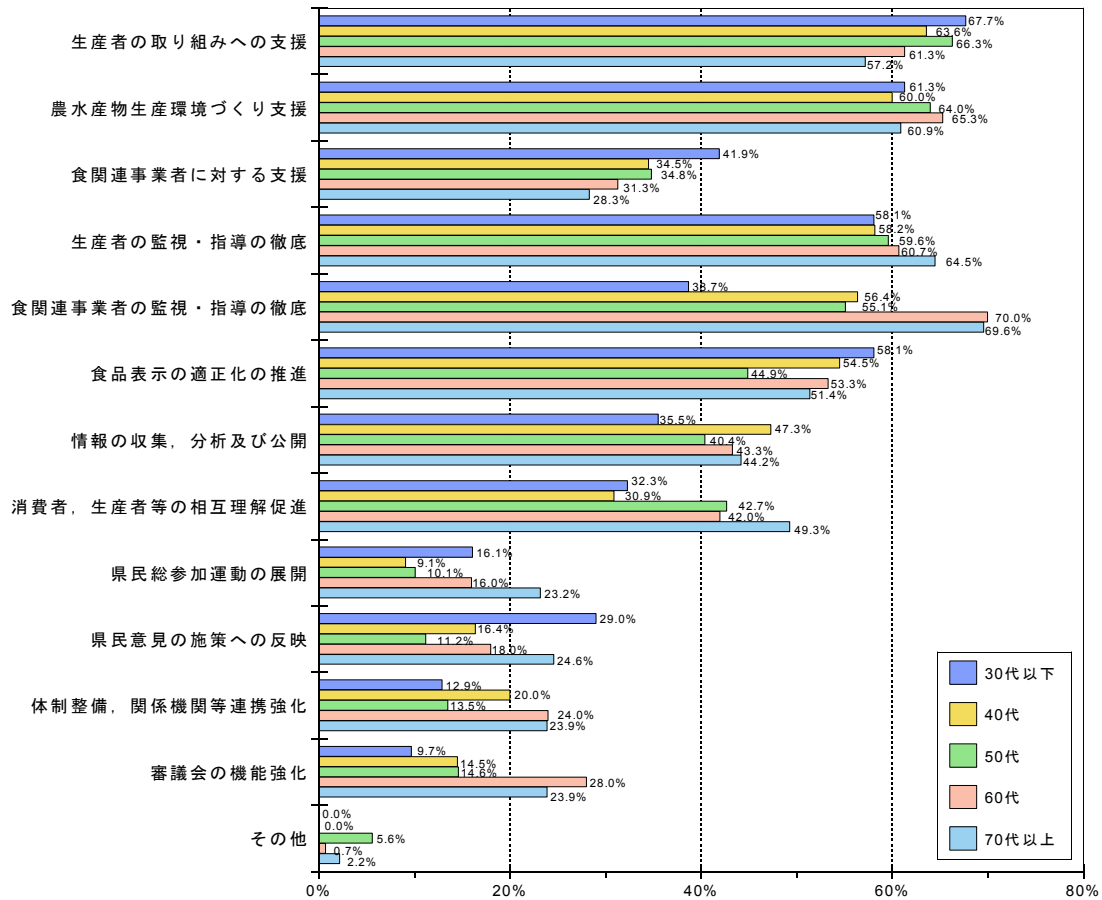


図 2 1 - 2 食の安全安心に向けて取り組むべきこと（年代別、複数回答）

未成年家族の有無別では有意差が見られ、「生産者の取り組みへの支援」の項目では「未成年家族あり」の回答割合が高い。「食関連事業者に対する安全性の監視及び指導の徹底」、「消費者、生産者及び食関連事業者との相互理解の促進」、「（県の）体制の整備及び関係機関等との連携強化」の項目では、「未成年家族なし」の回答割合が高い。

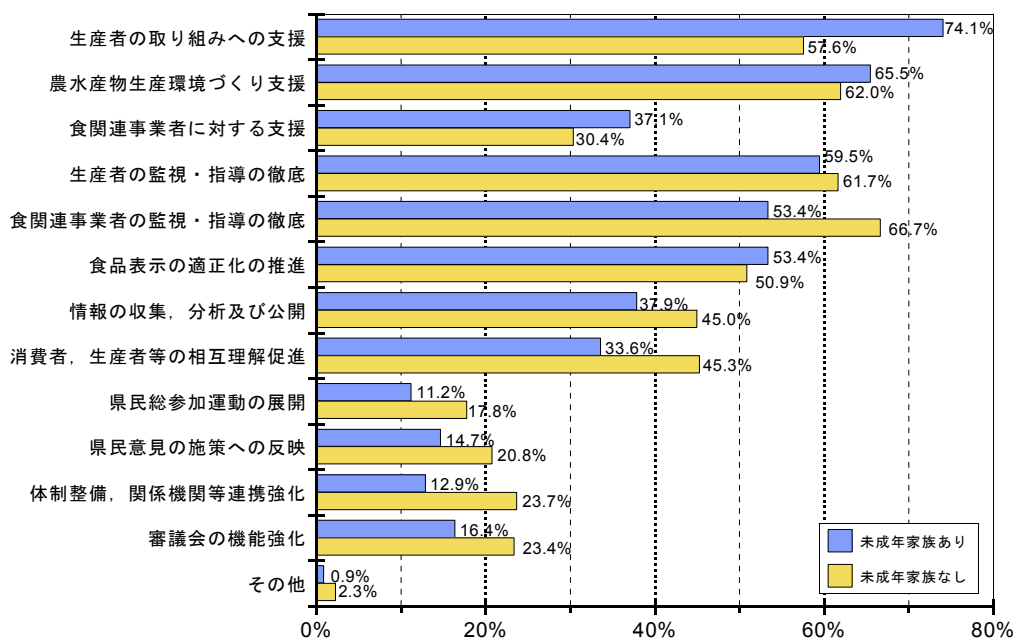


図 2 1 - 3 食の安全安心に向けて取り組むべきこと（未成年家族の有無別、複数回答）

問 2 2 あなたは、どのようにして県が出す食の安全安心に関する情報を確認していますか。(複数回答)

1 県政だより	2 県のホームページ	3 新聞
4 テレビ・ラジオ	5 その他	

県が出す食の安全安心に関する情報は「県政だより」(74.4%)、「新聞」(67.0%)、「テレビ・ラジオ」(55.0%)、「県のホームページ」(22.0%)の順で確認するとしており、昨年度と同様の傾向である。

男女別では「県のホームページ」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。

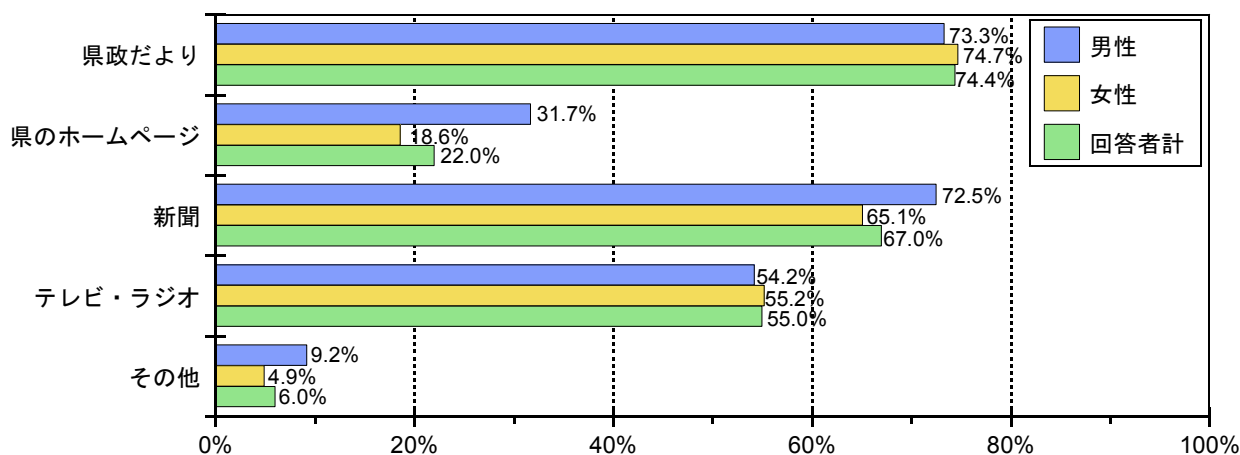
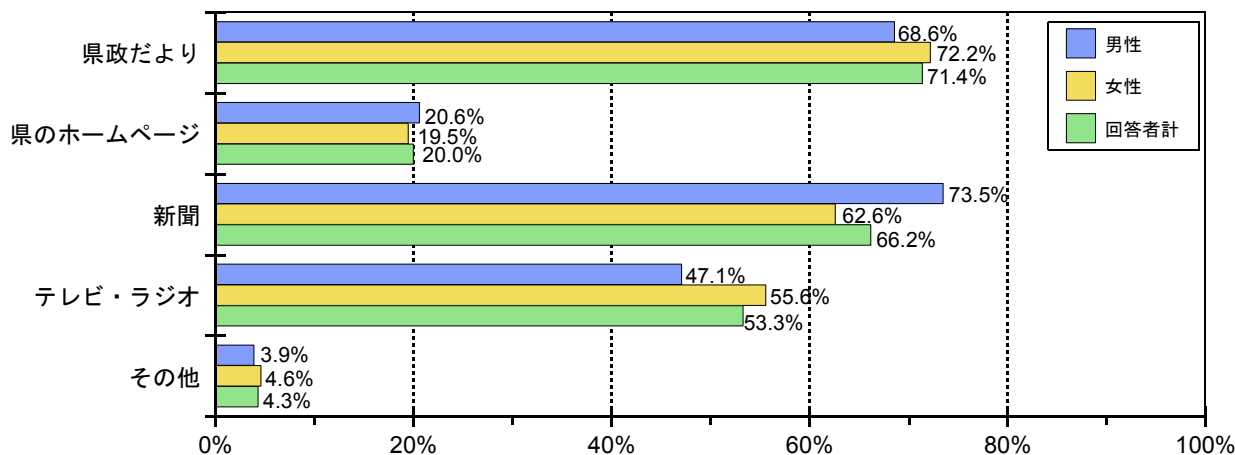


図 2 2 - 1 県からの情報入手方法 (男女別, 複数回答)



参考 (H27) 県からの情報入手方法 (男女別, 複数回答)

年代別では「新聞」の項目で有意差が見られ、60代の回答割合が高く、30代以下及び50代は低い。

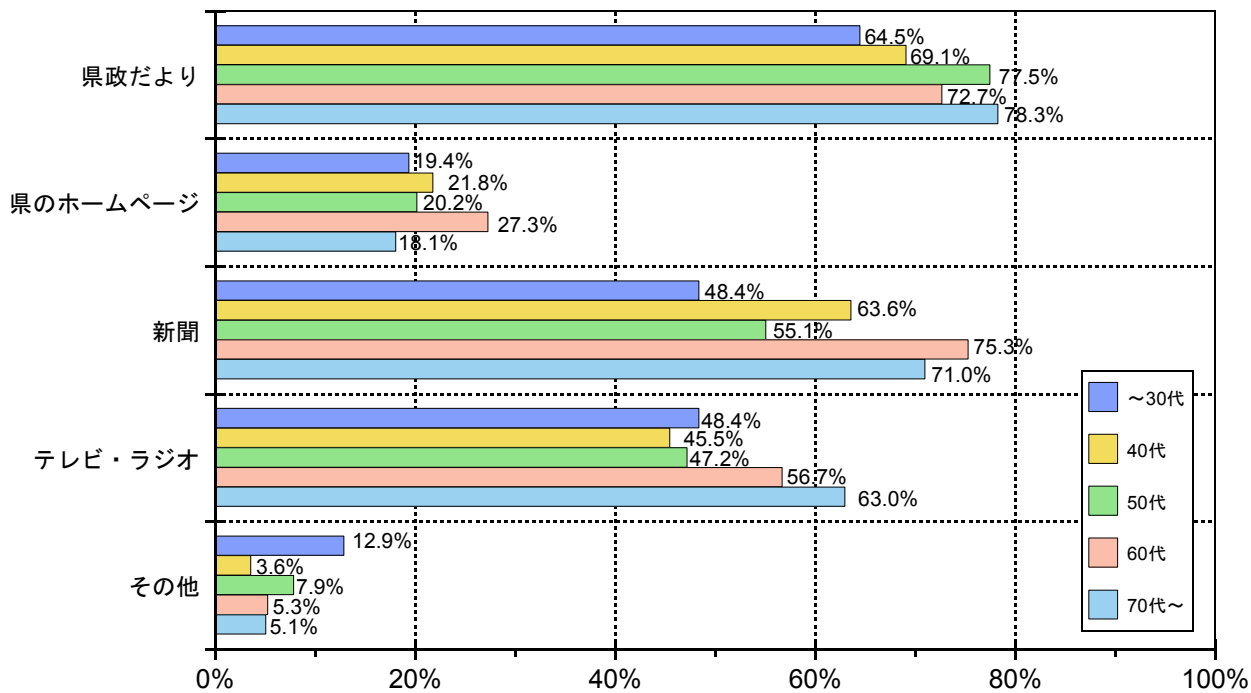


図 2 2 - 2 県からの情報入手方法（年代別，複数回答）

未成年家族の有無別では，有意差は見られない。

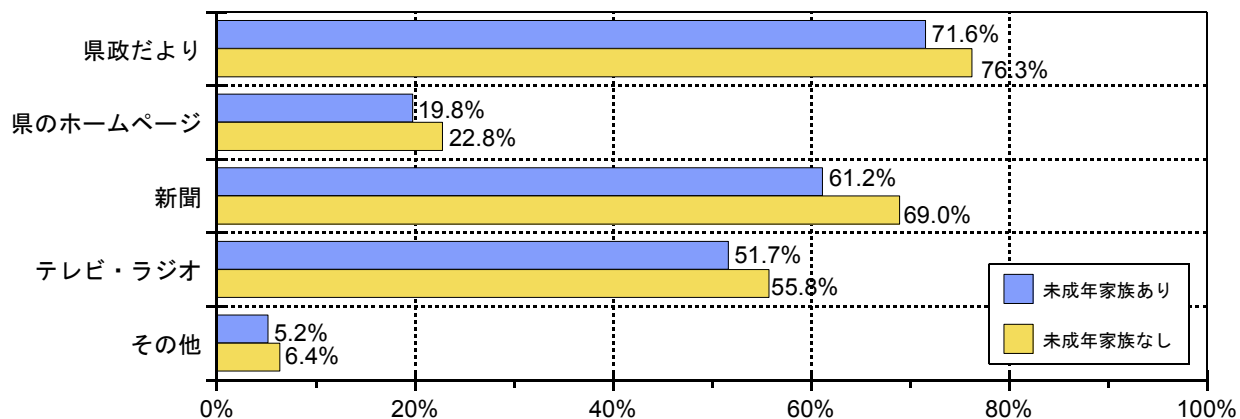


図 2 2 - 3 県からの情報入手方法（未成年家族の有無別，複数回答）

問23 県からの食の安全安心に関する情報提供について、十分だと感じていますか。
(単一回答)

評価	1 十分である	2 おおむね十分である	3 どちらともいえない
	4 あまり十分でない	5 十分でない	6 その他

県からの情報提供については、「十分である」(2.3%)と「概ね十分である」(40.9%)を合わせて43.2%となり、昨年度に比べ5.4ポイント上昇した。

男女別、年代別、未成年家族の有無別のそれぞれにおいて、有意差は見られない。

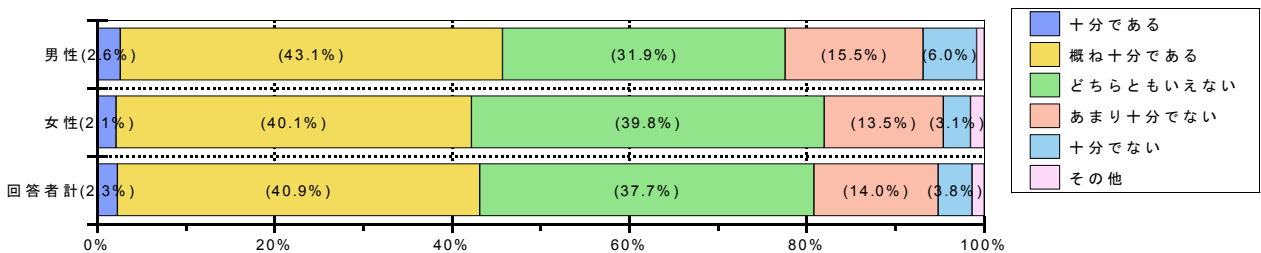
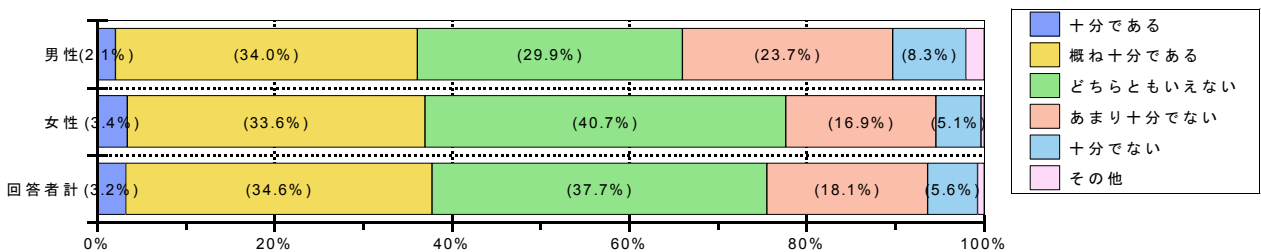


図23-1 県からの情報は十分か (男女別)



参考 (H27) 県からの情報は十分か (男女別)

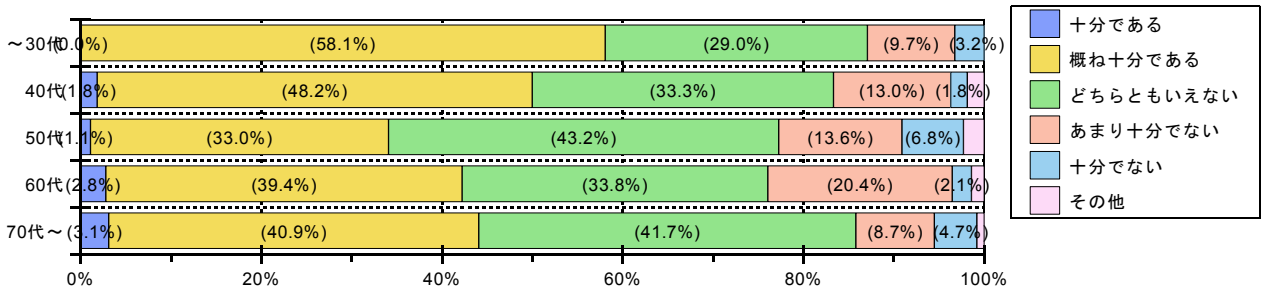


図23-2 県からの情報は十分か (年代別)

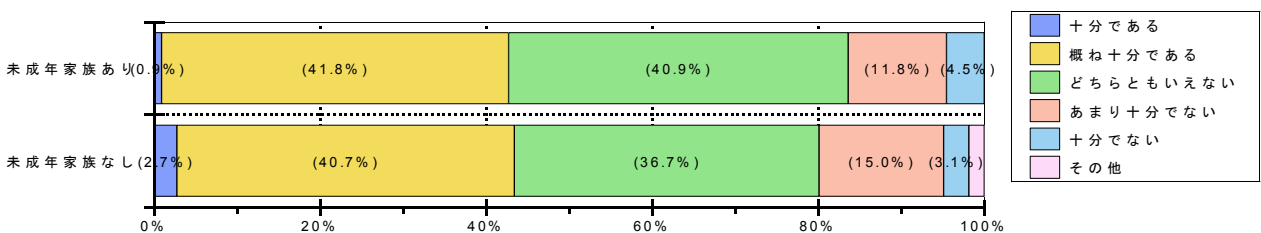


図23-3 県からの情報は十分か (未成年家族の有無別)

問 2 4 県からの情報提供について、どのような内容の情報を知りたいですか。
(複数回答)

- 1 法令等の改正や行政上の手続き
- 2 食中毒や自主回収等
- 3 食品表示の見方
- 4 国や県が行っている対策や事業
- 5 消費者モニターの活動（セミナーの内容等）
- 6 食の安全安心の確保に取り組んでいる生産者・事業者の紹介
- 7 その他

県から知りたい情報は、「食の安全安心の確保に取り組んでいる生産者・事業者の紹介」（63.8%）、「食中毒や自主回収等」（51.9%）、「国や県が行っている対策や事業」（49.4%）、「食品表示の見方」（37.1%）、「消費者モニターの活動」（23.3%）、「法令等の改正や行政上の手続き」（23.1%）の順となり、昨年度と比較すると、「食中毒や自主回収等」が「国や県が行っている対策や事業」を上回った。

男女別では有意差が見られ、「法令等の改正や行政上の手続き」、「国や県が行っている対策や事業」、の項目では男性の回答割合が高い。

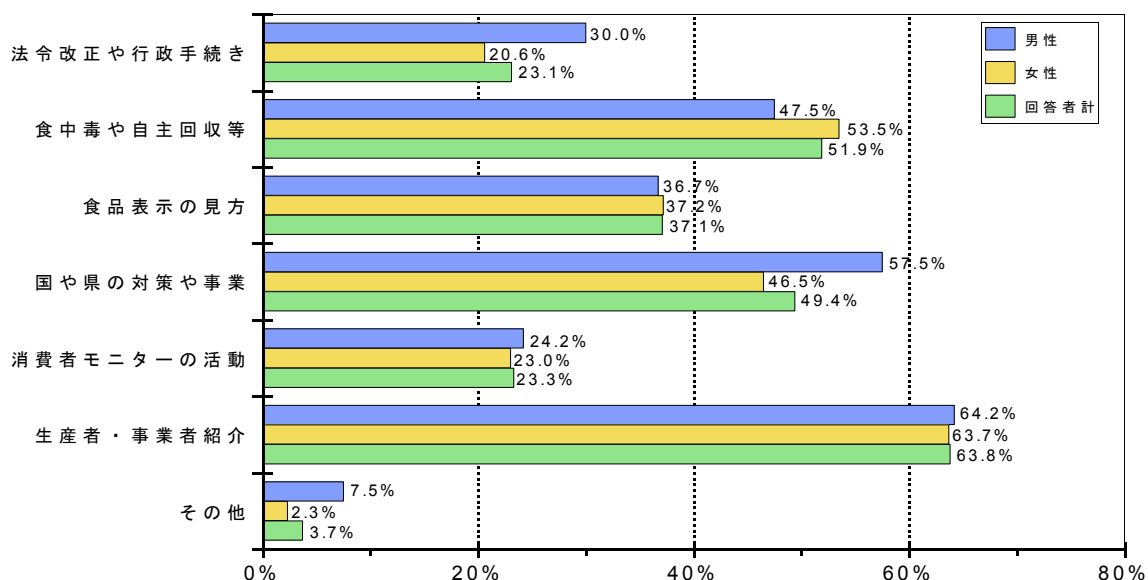
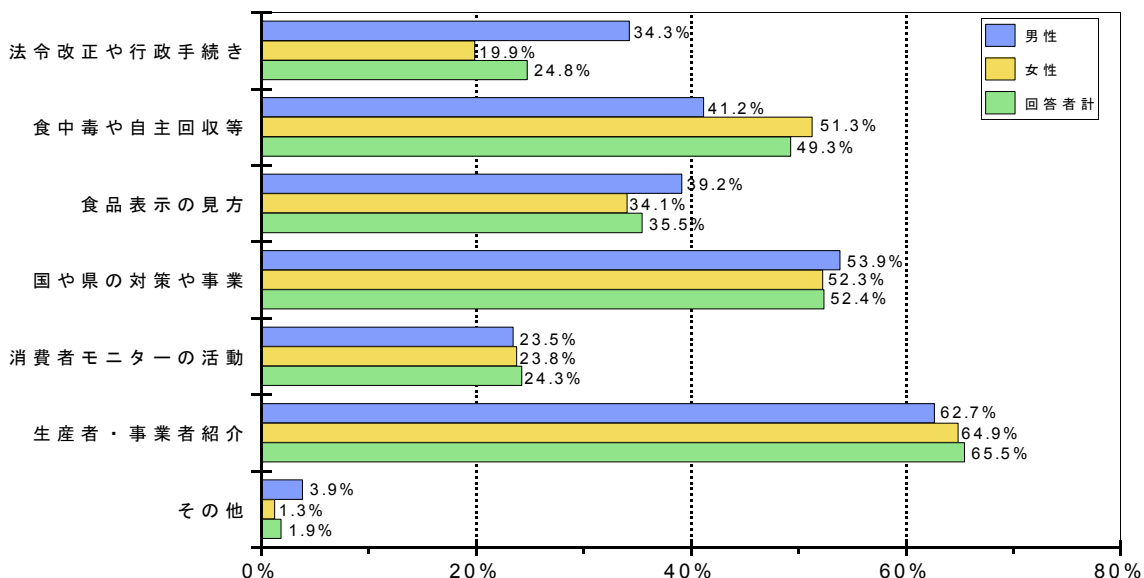


図 2 4 - 1 県からの情報で知りたい内容（男女別，複数回答）



参考（H27） 県からの情報で知りたい内容（男女別，複数回答）

年代別では、有意差は見られない。

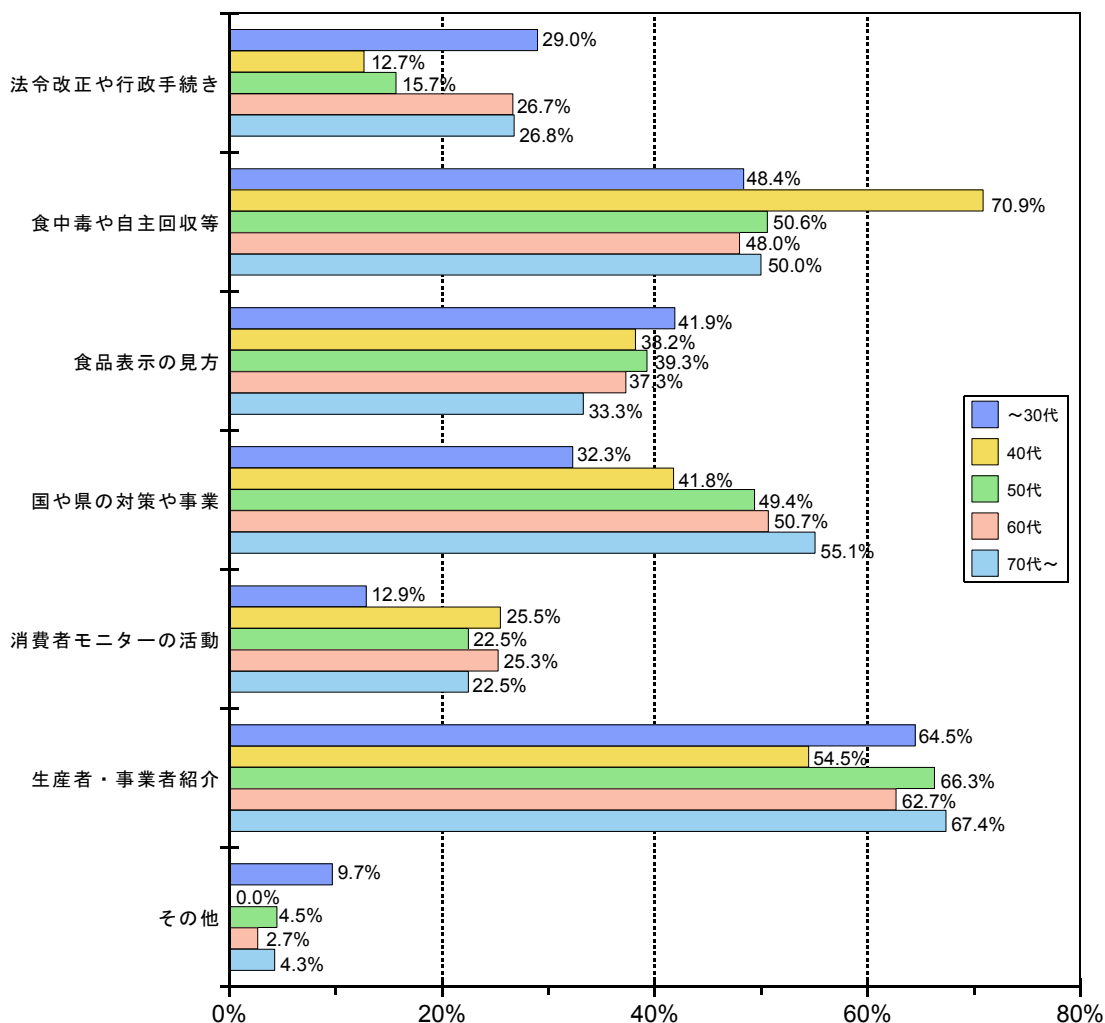


図 2 4 - 2 県からの情報で知りたい内容（年代別，複数回答）

未成年家族の有無別では、有意差は見られない。

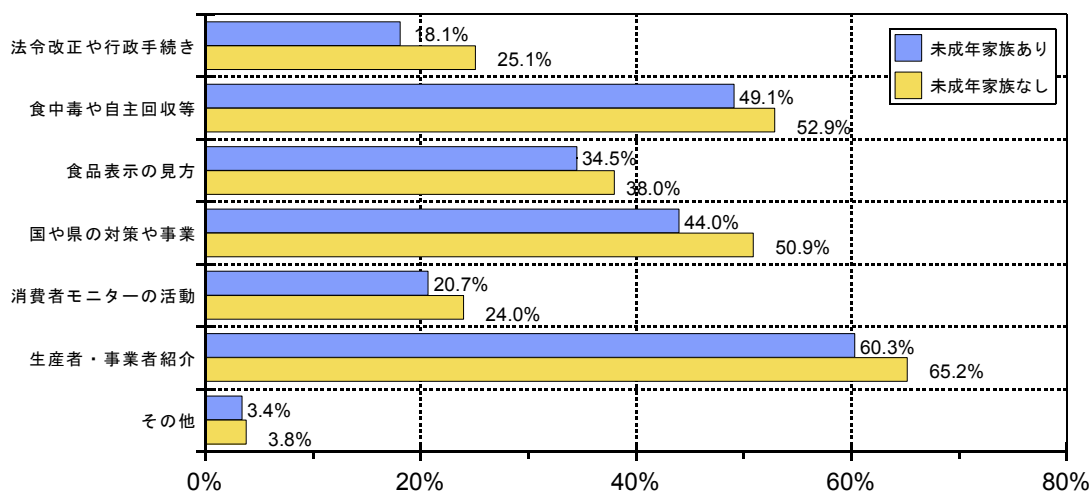


図 2 4 - 3 県からの情報で知りたい内容（未成年家族の有無別，複数回答）

問25 あなたは、食の安全安心に関して、どのような情報収集、あるいは活動等を行っていますか。(複数回答)

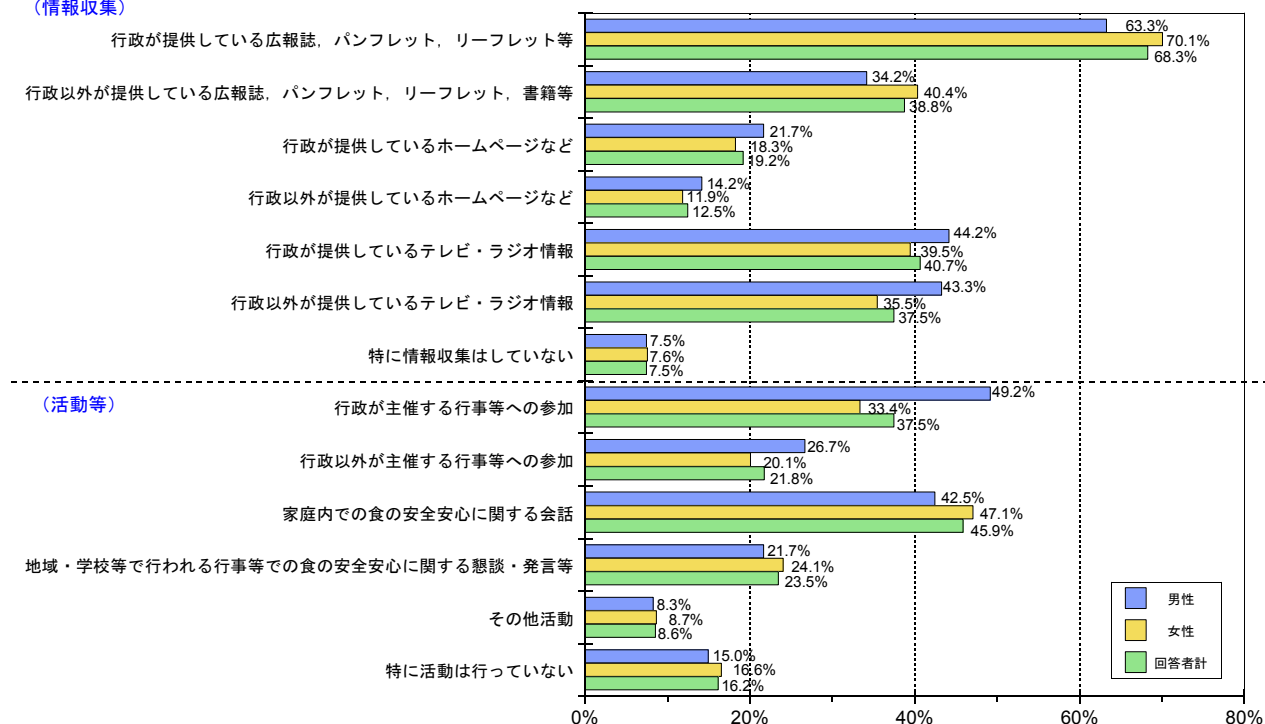
- (情報収集について)
- 1 行政が提供している広報誌、パンフレット、リーフレット等
 - 2 行政以外が提供している広報誌、パンフレット、リーフレット、書籍等
 - 3 行政が提供しているホームページなど
 - 4 行政以外が提供しているホームページなど
 - 5 行政が提供しているテレビ・ラジオ情報
 - 6 行政以外が提供しているテレビ・ラジオ情報
 - 7 特に情報収集(1～6)はしていない
- (活動等について)
- 8 行政が主催する行事等への参加
 - 9 行政以外が主催する行事等への参加
 - 10 家庭内での食の安全安心に関する会話
 - 11 地域・学校等で行われる行事等での食の安全安心に関する懇談・発言等
 - 12 その他の活動
 - 13 特に活動(8～12)は行っていない

情報収集については、「行政が提供している広報誌、パンフレット、リーフレット等」(68.3%)が最も多く、次いで「行政が提供しているテレビ・ラジオ情報」(40.7%)、「行政以外が提供している広報誌、パンフレット、リーフレット、書籍等」(38.8%)、「行政以外が提供しているテレビ・ラジオ情報」(37.5%)、「行政が提供しているホームページなど」(19.2%)の順であった。

活動等については、「家庭内での食の安全安心に関する会話」(45.9%)が最も多く、次いで「行政が主催する行事等への参加」(37.5%)、「地域・学校等で行われる行事等での食の安全安心に関する懇談・発言等」(23.5%)の順であった。回答者の80%以上が食の安全安心に関する何らかの活動をしている。

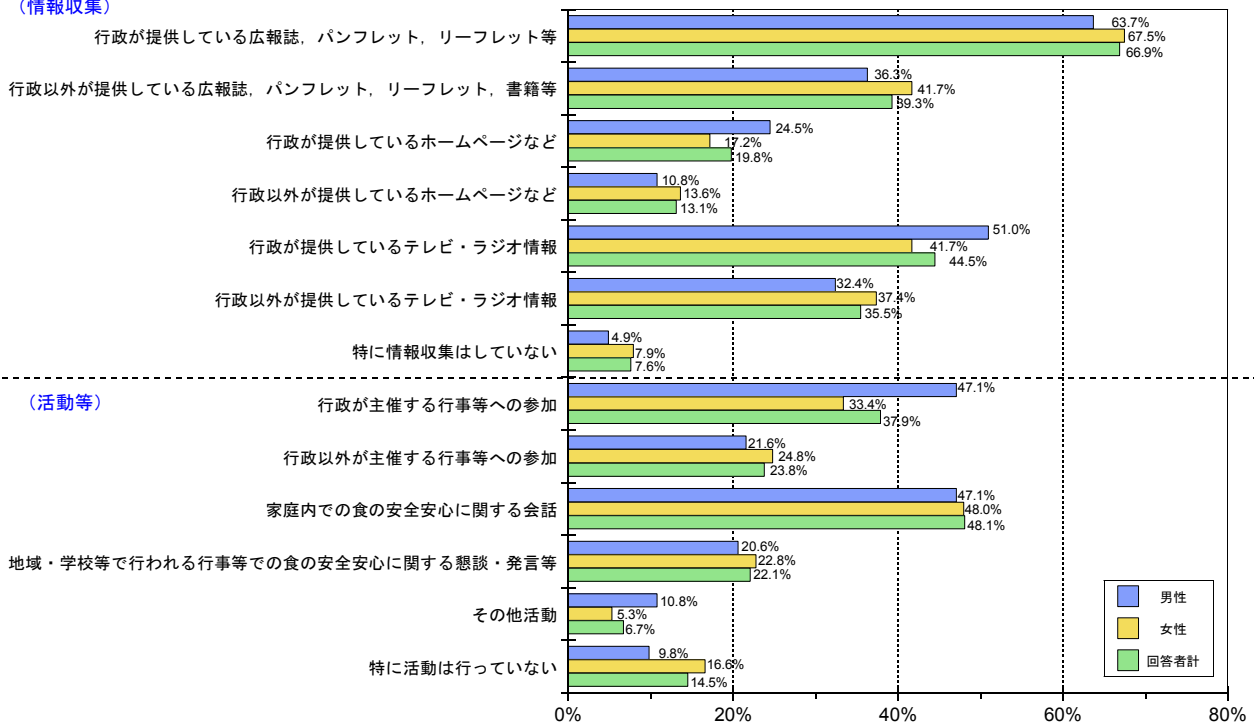
男女別では活動等のうち「行政が主催する行事等への参加」の項目で有意差が見られ、男性の回答割合が高い。

(情報収集)



問25-1 食の安全安心に関する情報収集、活動等について(男女別、複数回答)

(情報収集)



参考 (H27) 食の安全安心に関する情報収集、活動等について (男女別、複数回答)

年代別では有意差が見られ、情報収集のうち「行政以外が提供している広報誌、パンフレット、リーフレット、書籍等」の項目では70代以上の回答割合が低い。「行政が提供しているテレビ・ラジオ情報等」の回答割合は70代以上が高く、40代は低い。「特に情報収集(1~6)はしていない」の項目では40代の回答割合が高い。

(情報収集)

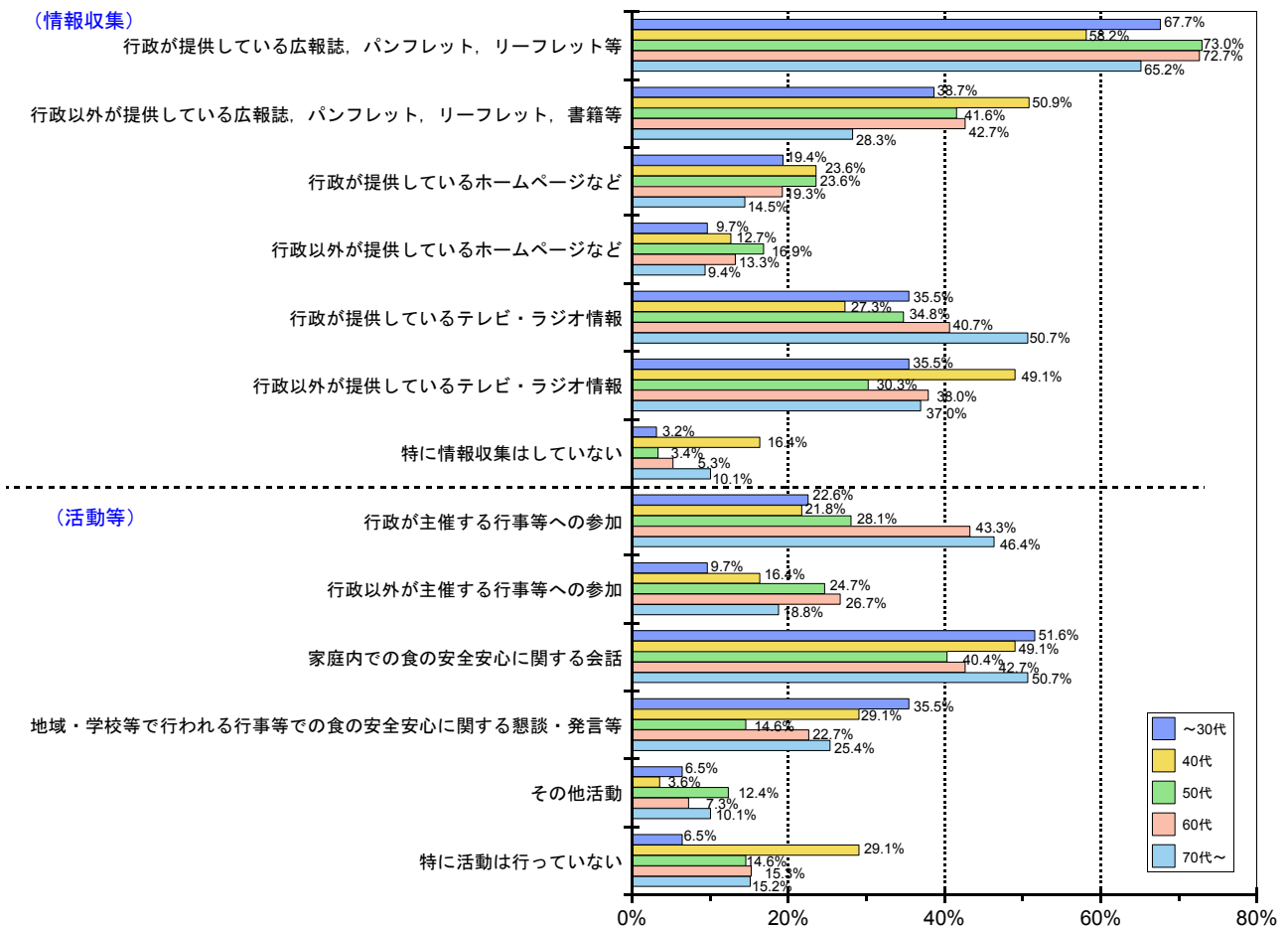
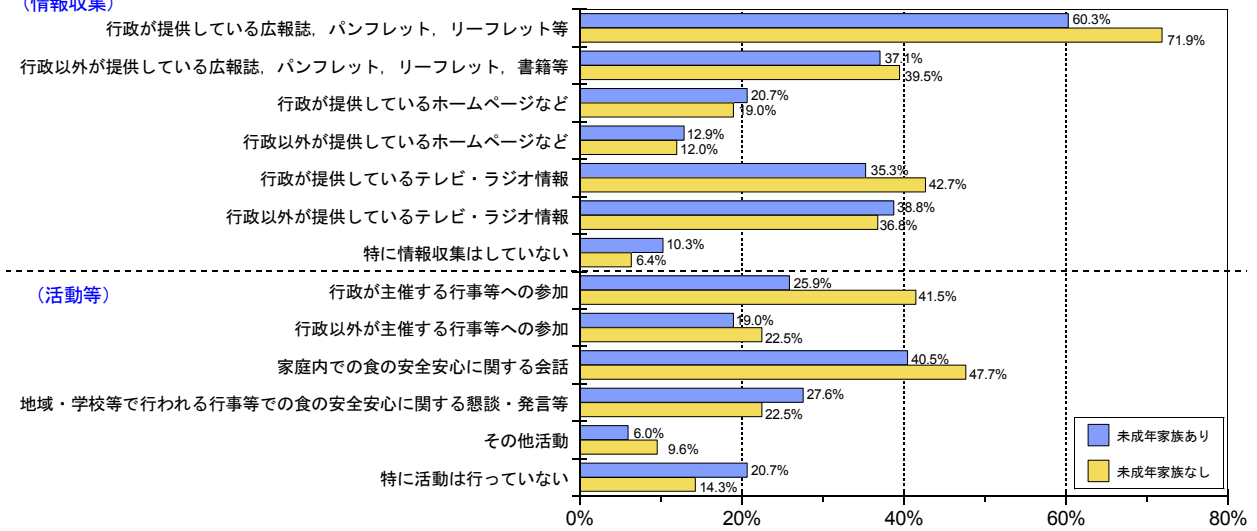


図 25-2 食の安全安心に関する情報収集、活動等について (年代別、複数回答)

未成年家族の有無別では有意差が見られ、情報収集のうち「行政が提供している広報誌，パンフレット，リーフレット等」，活動等のうち「行政が主催する行事等への参加」の項目では「未成年家族なし」の回答割合が高い。

(情報収集)



問 25-3 食の安全安心に関する情報収集，活動等について（未成年家族の有無別，複数回答）

問 2 6 食の安全安心全般, 国や県の施策についての意見, 提言

計 1 9 4 件の記述回答があり, その内容としては, 「情報提供の場を増やす」, 「迅速かつ正確で分かりやすい情報提供」等, 情報提供に関する意見と, 放射性物質に関する意見が多かった。また, 生産者・食関連事業者に対する, 支援・監視指導, 知識の普及啓発, 食品表示に関する意見も多かった。
(個別の内容は省略)